

目 次

— 講演記録 —

日本の豊かな多文化共生社会の構築に向けて

金城学院大学 教授 佐藤 久美1

— 講演記録 —

省エネ・節電、続けてますか？

朝日新聞 文化くらし報道部 be 編集部記者 斎藤健一郎 ... 20

ちょっとブレイクー身近な自然を楽しむ

釣り人からの水辺だよりー初冬「カワハギ釣り」

釣り人 工藤 秀和 35

— 講演記録 —

環境科学カフェ + (その1)

～名古屋城でフロンのなかった江戸時代に想いを馳せる～

名古屋産業大学大学院 非常勤講師 児玉 剛則
名古屋城観光ガイドボランティア 今川 晴人 37

【講演会】

主催 一般社団法人環境創造研究センター（愛知県地球温暖化防止活動推進センター）

平成 29 年 6 月 15 日（木）15：00～16：30

ウインクあいち 11 階 1101 会議室

演題 日本の豊かな多文化共生社会の構築に向けて

講師 金城学院大学 教授 佐藤 久美 氏

【講演会】

主催 一般社団法人環境創造研究センター（愛知県地球温暖化防止活動推進センター）

平成 29 年 8 月 2 日（水）15：00～16：30

名古屋都市センター14 階 特別会議室

演題 省エネ・節電、続けてますか？

講師 朝日新聞 文化くらし報道部 be 編集部記者 斎藤 健一郎 氏

【講演会】

主催 一般社団法人環境創造研究センター（愛知県地球温暖化防止活動推進センター）

平成 28 年 11 月 19 日（土）13：00～15：30

名古屋能楽堂会議室

演題 第 1 回 環境科学カフェ+「～名古屋城でフロンがなかった江戸時代に想いを馳せる～」

講師 名古屋産業大学大学院 非常勤講師 児玉 剛則 氏

名古屋城観光ガイドボランティア 今川 晴人 氏

〔講演記録〕

「日本の豊かな多文化共生社会の構築に向けて」

金城学院大学 教授 佐藤 久美

1. 日本の多文化社会とダイバーシティ

みなさん、こんにちは。佐藤久美でございます。よろしくお願ひします。今日は「日本の豊かな多文化共生社会の構築に向けて」というテーマでお話をさせていただきます。

1986年から	英文雑誌AVENUESを編集・発行。
1995年1月	阪神・淡路大震災が発生し、アメリカ人記者と取材に。
1996年	N女子短期大学の非常勤講師となる。
2001年	名古屋大学大学院国際開発研究科 GSID 修士課程(国際協力専攻)に入学。
2003年	GSID 博士課程に入学。
2005年	愛知万博一市町村一国防レンドシップ記録映画製作事業 プロデューサーを務める。
2009年	博士号(学術)取得。
2012年から	金城学院大学にて教鞭をとる。

日本の「国際化」政策と多言語情報提供
—多文化共生の視点から—
'Internationalization' Policy and the Provision of Multilingual Information
Services in Japan
—A Multicultural Viewpoint—

はじめに、私のこれまでの経歴をご紹介しますと、1986年から英語の雑誌『アベニューズ』を編集、発行しております。私はもともと木曾川の水で産湯を使ったという根っからの名古屋人として、欧米人には「I am a native NAGOYAN」と自己紹介していたのですが、世界の人たちに伝えるという視点で改めて名古屋を見ると、意外な魅力がいっぱいあることを再認識した次第です。『アベニューズ』は、中部地域に住んでいる欧米人が記者として執筆してくれていまして、編集の仕事を通して外国人記者からたくさんのお話を教えてもらうという日々を過ごしておりました。そのようななか、1995年に阪神・淡路大震災が起きました。私はアメリカ人記者とともにすぐに現地に取材に行ったのですが、そのときの経験が私を新たな道に進ませることになりました。災害時には、外国

人は情報がないために何が起こったのかわからない、どこに逃げたらいいのかわからないという情報弱者、震災弱者であることを学びました。そこで、英語の雑誌をつくるだけではなく、緊急時に外国人が情報弱者にならないような仕組みをつくることができなにかと思ひ、2001年に名古屋大学の大学院に入学し、2009年に博士号を取得しました。そして、2012年から金城学院大学に勤めております。

テーマ

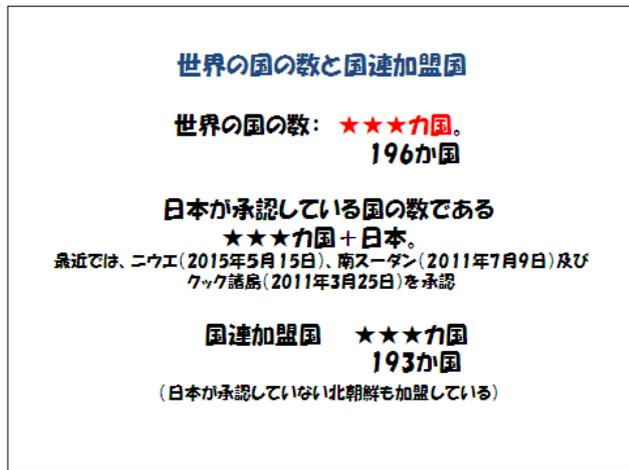
日本の多文化社会とダイバーシティ(多様性)

世界の国々と日本

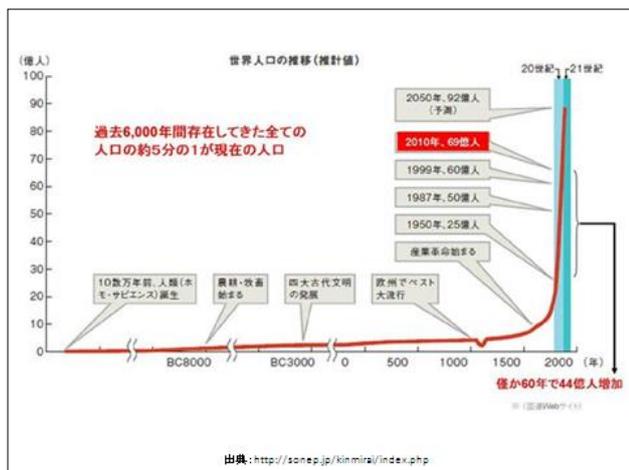
宗教・文明・文化への理解を

英文雑誌「アベニューズ」、
愛知万博フレンドシップフィルム・フェスティバル、
愛知善意ガイドネットワークの紹介まちの魅力を世界の人々へ伝えよう
多文化共生社会の構築に向けて

さて、今日のテーマですけれども、日本の多文化社会とダイバーシティ、世界の国々と日本との関わり、宗教・文明・文化への理解が大事であるという話をさせていただいて、その後、私がどんな雑誌を作っているのかについて、また、2005年の愛知万博の際には21か国の映画監督と一緒に映画を作るという仕事をしましたので、そのご紹介をさせていただきます。その他、私はいろいろなNPO法人の理事をしておりますので、そのご紹介をしたいと思います。多文化共生社会というと難しそうに聞こえますが、私たち一人一人が自分たちの住んでいるところの魅力を発信することが大切であるという話でまとめたいと思います。



ところで、日本が承認している国は世界に 196 か国あります。そして、そのうちの 193 か国が国連に加盟しています。



これは世界人口の推移を示した図ですが、これから人口が重要なテーマになってまいります。今、世界の人口は 70 数億人ですが、この図にあるように直角に近いカーブを描いてぐんぐん増えています。世界の人口が増えると、どんなことが起きるのでしょうか。環境への負荷が高くなります。食糧も足りなくなってしまうでしょう。エネルギーも水も足りなくなってしまうでしょう。森林の伐採も進むでしょう。水の奪い合いが起きることも考えられます。世界の人口は、2050年には90億人を超えると予測されています。わずか60年で44億人も増加することになります。このような状況にあるなかで、世界をどのように構築していくかが非常に重要です。

さて、世界で最も人口の多い国はご存知のように中国です。次いで、インド、アメリカ、インドネシアという国別のランキングが出ていますが、最近ではフィ

リピンの人口が増えており 1 億人を超えたので、人口が 1 億人以上の国は 12 か国になっています。



これは、今後の世界人口の推移の予測です。一番上がアフリカ、その下がオセアニアで、一番下が日本の人口を示しています。ご覧のように、日本の人口はどんどん減っていきます。

世界の人口と食糧

- 2050年までに世界の人口は90億人に。
- 世界中で食糧を奪い合う時代→暴動や騒乱が日常的に起こる。
- 世界人口の増加に対応するため、2050年までに食料生産を60%アップさせる必要がある(FAO: 国際連合食糧農業機関)。
- 世界では、およそ7億9,500万人(9人に1人)が、健康で活動的な生活を送るために必要かつ十分な食糧を得られていない。
- ビタミンやミネラルが欠乏する「隠れた飢餓」について、世界20億人を越える人々が影響を受けており、しばしば深刻な結果を招いている(国際食糧政策研究所: International Food Policy Research Institute, IFPRI)。
- その一方で、10億人が食べ過ぎの状況にあり、生活習慣に起因する糖尿病や心臓病などのリスクを抱えている。

人口の増加にともない、世界で食糧の奪い合いが起きるのではないかとこの予測については、国連の食糧農業機関も食糧の生産をどんどん増やさないと言っています。世界の人口がこれだけ増えているなか、およそ 7 億 9500 万人、つまり、世界人口の 9 人に 1 人が十分な食糧を得られていません。また、ビタミンやミネラルが欠乏している「隠れた飢餓」と言われる人をカウントすると、20 億人が影響を受けているという状況です。その一方で、10 億人が食べ過ぎの状況にあり、それに起因する心臓病などのリスクを抱えていると指摘されています。

文明と世界秩序

「文明の衝突」

原題: *The Clash of Civilizations and the Remaking of World Order*

- (文明の衝突と世界秩序の再創造)。
- アメリカ合衆国の政治学者サミュエル・P・ハンティントンによる国際政治学の著作。(1996年)
- 冷戦が終わった現代世界においては、文明と文明との衝突が対立の主要な軸である。
- 特に文明と文明が接する断層線(ファルト・ライン)での紛争が激化しやすいと指摘。

ところで、スライドには「文明と世界秩序」というタイトルをつけていますが、『文明の衝突』という本が 1996 年アメリカの国際政治学者であるサミュエル・P・ハンティントンによって著されました。この本が出版されたとき、私は衝撃を受けました。文明が衝突するのだろうかということです。ハンティントンは、東と西という大きな対立軸はなくなったけれども、文明と文明が接するところで紛争が激化しやすい、文明の対立が主要な軸になる、と言ったわけです。そして、その 5 年後の 2001 年にアメリカで同時多発テロが起きました、彼はそれを予測していたのかと言われました。これに対して批判も多かったのですが、次に彼がどんなことを文明の衝突と言ったのかという話をします。

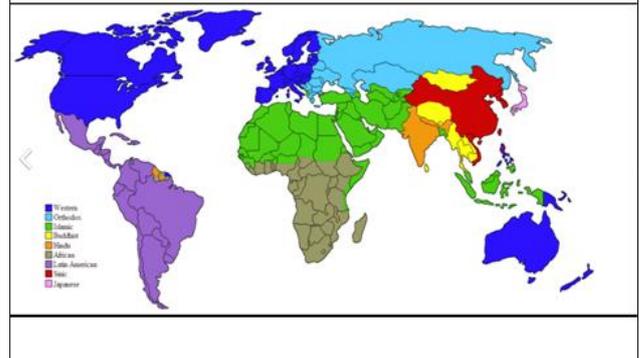
冷戦から文明の衝突(宗教の違いから)へ？

- ソ連や東ヨーロッパ諸国の社会主義体制が相次いで崩壊していったことで、冷戦という世界を二分する緊張関係は緩和された。
- しかしその結果、紛争や戦争のない平和な世界が実現されたかという、そうはならなかった。
- さまざまな地域や国のなかで、民族紛争や宗教紛争といわれる争いが頻発するようになった。

つまり、冷戦が終わっても平和な世界は実現されず、様々な地域や国において、民族紛争や宗教紛争が頻発するようになると彼は言ったわけです。

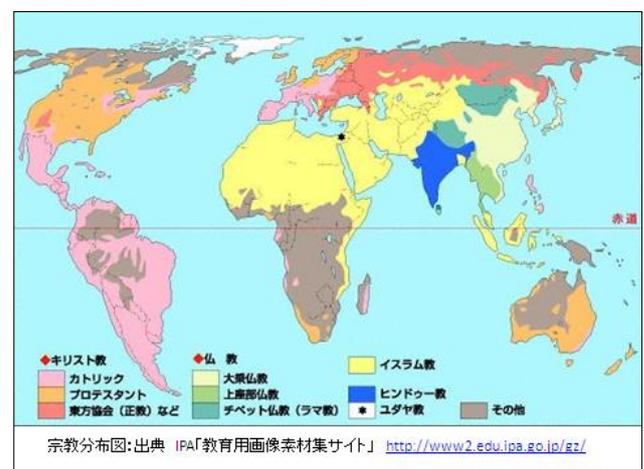
世界 文明圏 分布図

サミュエル・ハンチントン「文明の衝突」による分類



世界の文明圏について、彼はこの図のように分類しています。文明圏はいくつかありまして、その分布は後ほど説明する宗教分布とほぼ一致しています。

彼は、中華文明、ヒンドゥー文明、イスラム文明、日本文明等に分けているのですが、それぞれの文明はそれぞれの土地にある宗教に基づいて形成されてきたと言っています。なかでも、イスラム文明が特徴的で、7 世紀にムハンマドが起こしたイスラム教を基礎としていて、その位置はエネルギーを生み出す地域にあります。このほか、東方正教会文明、西欧文明、ラテンアメリカ文明、アフリカ文明というように文明圏を位置づけています。



これは宗教分布図です。先ほどの文明圏の分布図とほぼ一致していることがわかります。カトリックはヨーロッパや南アメリカに広がっていますが、それはスペインやポルトガルが南アメリカ大陸を植民地にしたことで広がりました。北アメリカやヨーロッパはプロテスタントです。そして、一番注目していただきたいのがイスラム教の地域です。非常に広範囲にわたっ

ています。そして、小さな星が描かれている国はユダヤ教の国イスラエルです。イスラエルは第二次世界大戦後の 1948 年にユダヤ人が中心になって建国されました。その背景にはいろいろなことがあります、ユダヤ教の存在があります。

宗教	人口	割合	
キリスト教	2254000000	33.4%	0.33394572
イスラム教	1500000000	22.2%	0.22223539
ヒンズー教	900000000	13.5%	0.13334124
無宗教	769000000	11.4%	0.11393268
中国の伝統的な宗教	387200000	5.7%	0.05736636
仏教	384000000	5.7%	0.05689226
土着	270300000	4.0%	0.04004682
無神論	148300000	2.2%	0.02197167
新宗教	107000000	1.6%	0.01585279
シーク教	23800000	0.4%	0.00352613
ユダヤ教	15090000	0.2%	0.00223569
心霊主義	13660000	0.2%	0.00202382
ババハイ教	7860000	0.1%	0.00116451
儒教	6410000	0.1%	9.4969E-04
ジャイナ教	5570000	0.1%	8.2523E-04
道教	3370000	0.1%	4.9929E-04
神道	2780000	0.0%	4.1188E-04
ソロアスター教	180000	0.0%	2.6668E-05
その他	1340000	0.0%	1.9853E-04
合計	6749600000		

「世界の宗教人口割合」
出典:百科事典「ブリタニカ」
年鑑2009年版

これは世界の宗教別人口を示したものです。少し古いデータですが、今はキリスト教が 3 割以上と最も多く、次いでイスラム教、ヒンドゥー教の順に比率が高くなっています。

必要とされる宗教への理解

人類の五十五%以上が唯一絶対神を信じている。

唯一絶対の神の存在のみを信じる宗教

→ キリスト教、イスラム教、ユダヤ教

私たち日本人は、宗教について考えることはあまりありません。私たちは神道、仏教だけでなく、キリスト教も受け入れています。お正月に神社に行きますし、クリスマスにもお祝いをします。このように、日本人は寛容に宗教を受け入れてきたわけですが、先ほどもお見せしましたように、世界人口の半分以上は唯一絶対の神を信じています。それがキリスト教であり、イスラム教であり、ユダヤ教です。今私が勤めております金城学院大学もキリスト教のミッションスクールですが、世界の多くの人々は、私たち日

本人のように、どこにでも神様がいて考えているわけではありません。世界には、唯一絶対の神をととても大切にしている人たちがたくさんいることを理解しなくてはなりません。

ユダヤ教は、紀元前 2000 年に生まれています。そして、イエス・キリストが生まれてキリスト教が生まれ、紀元後 700 年にイスラム教が生まれています。これらの宗教はあまり仲が良くありませんが、もともとは同じ神様です。エルサレムに行くと 3 つの宗教の聖地が隣り合っていて、今はどこがエルサレムを自分の領土にするかという奪い合いをしています。

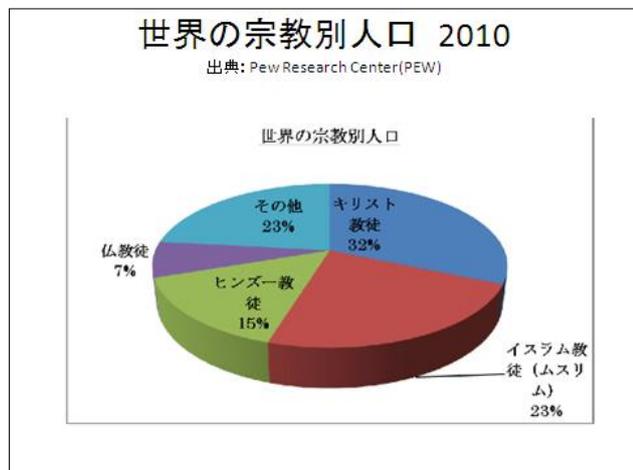
2030年に世界人口の26%に増加するイスラム人口

- 世界におけるイスラム人口は 2010 年に 16 億人を超え、2030 年には世界人口の約 1/4 に達すると推計されている。
- 特に、ムスリム人口の国別上位 10 位のうち、4 位までがアジア(1位インドネシア、2位パキスタン、3位インド、4位バングラデシュ)。

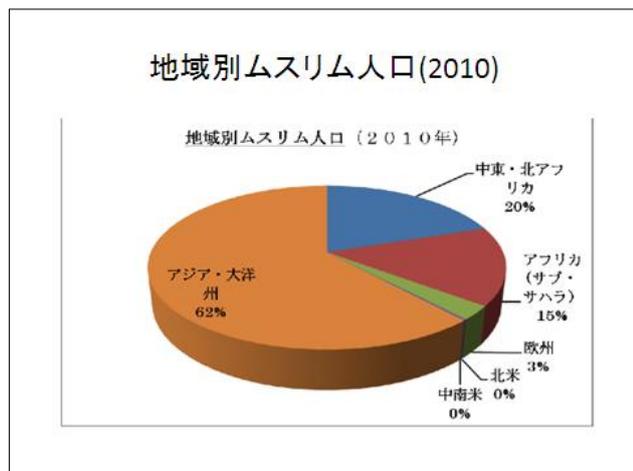
世界人口に占めるイスラム人口の割合は 2030 年には 26% に達すると予測されています。4 人に 1 人がイスラム教信者になるわけです。そして、さらに 20 年くらいたつと、3 人に 1 人になると言われています。イスラム教を信じている人をムスリムと言いますが、ムスリム人口が一番多いのはアジアです。遠いアラブの国、中東ではなく、アジアで最もムスリム人口が増加しています。インドネシア、パキスタン、インド、バングラディッシュという順でムスリム人口が多くなっています。イスラム教はわかりにくいとか、IS、イスラミックステートがいろいろな問題を起こしているので怖いという印象を持ってしまったりかもしれませんが、私にはムスリムの友達が結構います。金城学院大学の教員にもイランの方がいますし、最近まではバングラディッシュから来ている方もいました。また、名古屋市内には日本トルコ協会がありまして、大学で講演をしていただくなど、お世話になっています。私たちはイスラム教という敬遠しがちですが、身

近なところにもたくさんのイスラム教徒がいることを認識する必要があります。

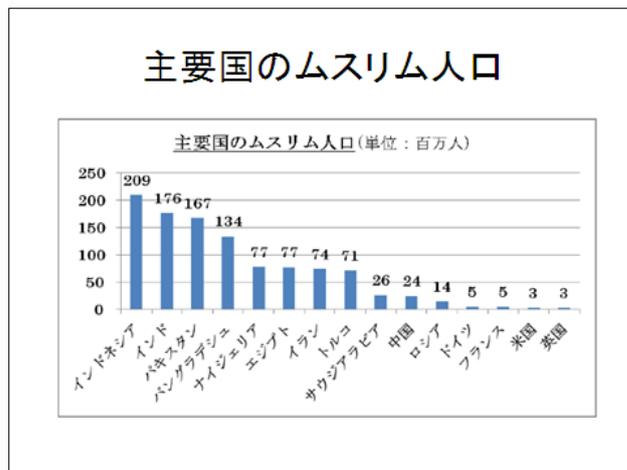
中東各国は、国民のほぼ 100%がムスリムです。非イスラム国家である中国、インド、ロシアにもムスリムはたくさんいます。また、フランス、ドイツは移民をたくさん受け入れてきましたので、数百万人規模のムスリムが住んでいます。



これは世界の宗教別人口をグラフに表したものです。現在はキリスト教徒が最も多くなっていますが、キリスト教徒とイスラム教徒の人口はいずれ逆転するでしょう。



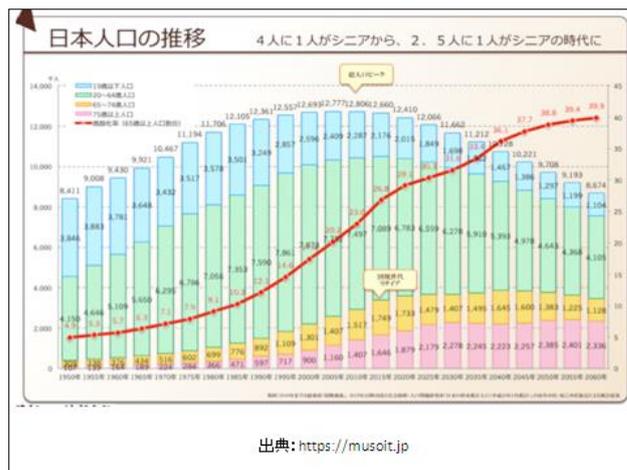
先ほどお話ししましたが、地域別のムスリム人口をみると、アジアが一番多くなっています。



主要国のムスリム人口では、インドネシアが最も多くなっています。世界の総人口とムスリム人口の推移をみると、2030年にはムスリム人口と非ムスリム人口の比が 22 : 61になると予測されています。

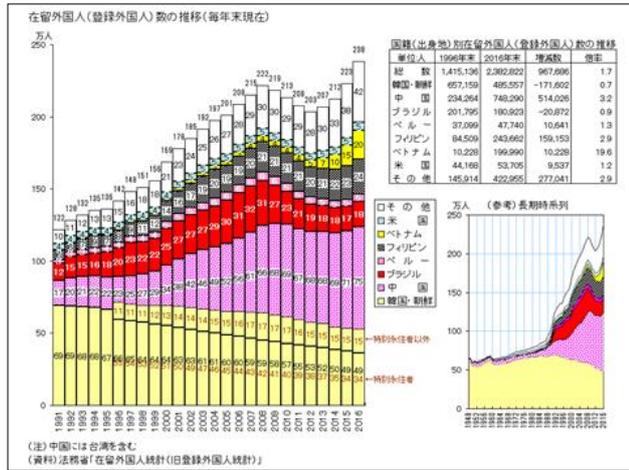


次に、日本の人口の推移を見てみますと、この図のように減っていき、今後も減っていくことが予想されています。特に、15歳以上65歳未満の生産年齢人口が減少します。



日本の人口推移を年齢別に見てみますと、グラフの

一番上が 19 歳以下、その下が 20 歳～64 歳、さら
下が 65 歳～74 歳、そして一番下が 75 歳以上を示
しているのですが、65 歳以上の割合が大きく増えており、
4 人に 1 人が高齢者となっています。



ところで、日本に住んでいる外国人はどれくらいい
るのでしょうか。先ほど、日本は世界に 196 の国があ
ると認めているとお話ししましたが、そのうち 189～
190 か国の人が日本に住んでいます。なかには、その
数が 1 人あるいは 2 人といった少人数の国もありま
すが、この図にあるように在留外国人の数は増えてい
ます。リーマンショックの時に一時減りましたが、今後
はずっと増えていくと考えられます。日本では働き手
が減っていますから、外国から来ていただかないと生
活が支えられないという現実があります。一方、日本
に最も多く住んでいる外国人は中国人であり、次いで
ブラジルの人たちです。リーマンショックの際に帰国
しなかったブラジルやペルーの人たちは、そのまま日
本に定着していると思われます。日本は 1990 年に入
国管理法を改正しているのですが、それ以前は日本に
ブラジル人はいませんでした。ご存知のとおり、かつ
て南米には日本からたくさんの人が移住しました。そ
の子孫を受け入れて人手不足の解消に役立てようと、
政府はブラジルの日系人は三世まで無条件にビザを
出すようにしたわけです。日本にはブラジルよりも仕
事が多くあったため、たくさんのブラジル人がこの
ときに来日しました。私は全国各地の国際交流協会に
聞き取り調査に行っているのですが、最近の特徴とし
ては、タイ、ベトナム、フィリピンの方が増えていま
す。

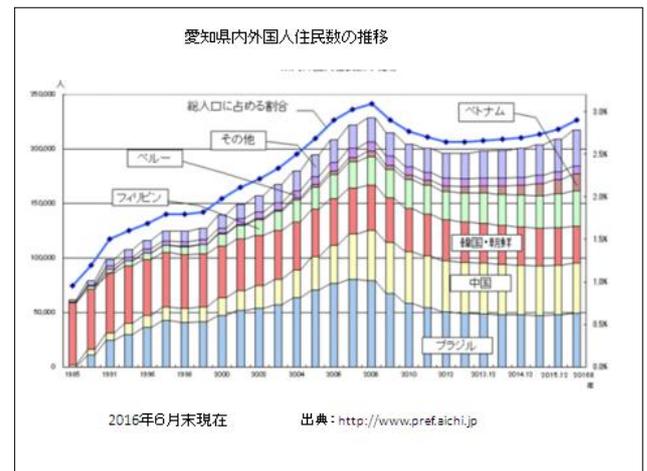
私たちは一口に外国人と言いますがけれども、日本経

済におけるその位置づけは国籍によって大きく異な
ります。私は東日本大震災のときに東北地方に聞き取
りに行ったのですが、田舎の小さな村にも韓国人、フ
ィリピン人、中国人の方がいます。それは農家の嫁で
す。東北地方の人たちは家を守るという意識がとても
強いのですが、お嫁さんが来ないので外国からお嫁さ
んを貰っています。そ。このように、地域によっては、
外国人は嫁不足の解消につながっています。

愛知県内の外国人住民

- 平成28(2016)年6月末現在の愛知県内の外国人住民数は、**217,465人**で、平成27年(2015)年12月末の外国人住民数に比べ**8,114人**増加。
- 県内総人口(7,504,117人。)に占める外国人住民数の割合は**2.90%**。

愛知県に目を向けてみても、やはり外国人住民の数は
は増えています。



愛知県内の外国人住民は、ブラジル人が多いという
特徴があります。製造業が盛んな地域ですから、工場
で働く人たちを受け入れてきたという背景がありま
す。

愛知県の外国人登録者の国籍数は、約160の国と地域(無国籍を除く)

愛知県における外国人住民数の国籍(出身地)別内訳(平成28年6月末現在)

国籍(出身地)	住民数	割合
ブラジル	49,444人	22.7%
中国	45,684人	21.0%
韓国・朝鮮	33,946人	15.6%
フィリピン	32,288人	14.8%
ベトナム	15,655人	7.2%
ペルー	7,522人	3.5%
その他	32,926人	15.1%
総数	217,465人	

33

愛知県には160の国と地域の人が住んでいます。もはや日本は日本人がつくっているという考え方は間違いです。その認識は改めなくてはなりません。

ムスリム人口は日本でも増えています。AEONのホームページを見ると、ムスリムの女性向けの衣料の販売を始めている店があることがわかります。栃木県佐野市はムスリムフレンドリータウンと打ち出していて、それを市の魅力にしようとしています。私の周りの日本人女性もムスリムになる人が増えています。というのは、留学生や働きに来ているイスラム教の人が日本の女性と結婚するからです。イスラム教徒の男性と結婚した女性は、ほぼ100%イスラム教徒にはなりません。生まれた子どももイスラム教徒です。中村区にイスラム教の礼拝所モスクがあり、かつてそこを見学させていただいたときにも、日本人女性何人かいました。そこに来ていた女性によると、お子さんの学校給食に困っているとのことでした。イスラム教徒は、豚肉やアルコールの飲食が禁じられているため、給食が食べられません。そのため、学校からメニューを2週間分くらいもらって、それと同じものを弁当として持たせているそうです。それでも、子どもはいじめられることがあると言っていました。このように身近にムスリムの人が増えており、私たちには宗教への理解が求められます。

自治体の国際化活動の変遷とその背景 国際交流から国際協力、多文化共生へ

戦後から1950年代:

1953年に大統領に就任したアイゼンハワー大統領。
ピープル・ツー・ピープル市民外交イニシアティブを提唱。アメリカ合衆国の占領下にあった日本アメリカの資金によってアメリカとの国際親善が始まった。
YWCA、ボーイスカウト、青少年赤十字、米国のフルブライト財団による奨学金制度など。

- 国際姉妹都市交流の推進。1955年、長崎市とアメリカのセントポール(ミネソタ州)の間で最初の姉妹都市提携。
- 日本の各都市は主にアメリカの都市と姉妹都市提携を次々に締結し、ホームステイプログラムなども含めた交流が促進された。

自治体による国際化活動の変遷をみると、戦後、日本ではピープル・ツー・ピープル・プログラムによる国際交流がありましたが、それは遠い国との交流でした。日本で最初に姉妹都市提携が行われたのは、長崎市とアメリカのセントポールです。原爆を落としたアメリカ側からのオファーで、長崎市とセントポールは姉妹都市提携をしました。二つの都市は今も積極的に交流を行っています。

1960年代 1970年代

- 1960年代の終わりまでに154件の姉妹都市提携。自治体は初めて海外と直接交流する機会を得て、国際交流活動をおこなうように。
- 1964年:東京オリンピック。海外への関心。
- 1970年:大阪で日本万国博覧会(日本を含む77カ国と四つの国際機関が参加)の開催。アメリカに次ぐ経済大国となった日本の象徴的な意義。一般市民の海外旅行も普及。その交流の相手となる国・地域からの訪問者をホームステイで受け入れるようになった。「国際交流の大衆化」
- インドシナからの難民受け入れに関しての日本の対応に対して世界からの批判。→国際人権規約の批准(1979年)、インドシナ難民条約への加盟(1981年)⇒単一民族主義が国際的圧力によりある程度の針路修正を余儀なくされた。

1960年代には、東京オリンピックがあつて、私たち日本人は海外に関心を持つようになりました。さらに、1970年代には大阪で日本万国博覧会が開かれ、国際交流は大衆化しました。一方で、1970~1980年に、日本は世界からバッシングを受けました。日本はオリンピックや万博を開催できるほど豊かになったにもかかわらず、ベトナムをはじめとするインドシナ半島から来たボートピープルを追い返したのです。何と人権意識のない国かということで、たいへんな批判を受け、その後、日本は難民条約(「難民の地位に関する条約」)に加盟しました。

1970年代、1980年代

- 1970年代後半:「民際交流」
国際交流活動の主体は市民であり、地域であることが強調されるように。
- 1980年代:
中国、韓国との姉妹提携の増加。ネパール、タイ、インドネシア、マレーシア、モンゴルとの姉妹提携も。都道府県や政令指定都市で、国際交流協会や国際交流センターが設置される。「国際化」が標語となって地域の国際化が全国的なブームに。円高による新規入国者や非正規就労者の増加、バブル景気による人手不足→外国人労働者を受け入れるべきか否かの議論が活発に。

1980年代には、都道府県や政令指定都市に国際交流協会や国際交流センターが設置されています。

1990年代

- 1990年: 入国管理法の改正。
日系人は、原則として日系3世まで(未成年・未婚・被扶養者については4世まで)身分に基づく在留資格が与えられるため、国内における就労制限がない。従来は、日系1・2世に対してのみ在留資格が与えられていたが、1990年から施行された改正入管法により、日系3世にも「定住者」という在留資格が認められることが明確になったことで、入国者数も急増した。

先ほどお話ししましたように、1990年には入国管理法の改正が行われました。

1990年代から

- 1990年代:「地球市民」。
自治体の国際活動が国際協力に。
- 1995年: 阪神淡路大震災。ボランティア元年
日本語を理解出来ない外国人住民→情報弱者、災害弱者に。

1990年代には、「地球市民」という言葉が使われるようになりました。そして、1995年に阪神・淡路大震災が発生しました。このときに日本中の若者たちが阪神・淡路地域にボランティアに行ったことから、1995年はボランティア元年と位置づけられています。

多文化共生という言葉の定着

外国人被災者の支援活動を行った「外国人地震情報センター」が、その後「多文化共生センター」に改名(1995年10月、2000年にNPO法人化。)

- 「多文化共生」が地域社会にとってのテーマとして認識され始めた。
- 1998年にNPO法が成立し、国際交流・協力活動の分野でのNPO法人化が始まった。景気悪化の影響で、国際交流・協力活動の予算が減額され、事業の見直しや評価が議論されるようになった。

また、阪神・淡路大震災をきっかけとして、多文化共生という言葉が定着しました。日本には日本語を理解できない外国人がたくさんいることに、日本人の側が気づいたというわけです。

2000年代

- 2000年代 多くの市民団体が「多文化共生」をキーワードに活動をはじめます。
- 1990年代のバブル経済の崩壊以降、不況感が高まる中、自治体による国際交流・協力活動の事業予算がさらに縮小される。アジアとの経済交流の可能性をさぐる動きが活発化。
- 「多文化共生」がより大きな課題となる。

2000年代になると、多くの市民団体が多文化共生をキーワードに活動を始めています。

総務省(2006)

「地域における多文化共生社会推進プログラム」

- 2004年10月「多文化共生の地域づくり」外国人集住都市会議(浜松市など外国人住民の多い全国15市町)
- 2004年10月「多文化共生社会づくり推進共同宣言」愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市
- 2005年「多文化共生社会を目指した取り組み」総務省の2005年度の重点取り組みに。
- 2005年「多文化共生元年」(山脇啓造 明治大学)

そして、総務省が多文化共生社会を構築するための指針を出しました。もともとは、日本は国際化が遅れているからもっと国際化の進んだ国になろうという思いだったのですが、多文化共生という方向にシフトしています。

国際交流と多文化共生の違い

国際交流: 外国から来日する人々をゲストとする視点にたつ。外国や外国人との交流。

多文化共生: 外国人を住民として認める視点にたつ。地域の構成員として地域への社会参加を促す。総合的な生活支援の必要性。

外国人は支援される対象であるだけでなく、地域社会を支える主体であるという認識を持つ事が大切。

求められる**二分法的な考え方からの脱却**

日本 vs 外国

日本人 vs 外国人

42

国際交流と多文化共生は違うものです。国際交流は、外国から来た人々をゲストとして受け入れる視点に立ちます。つまり、おもてなしをする視点です。一方、多文化共生は、日本に住んでいる外国人を私たちと同じ住民として認める視点に立ちます。地域のいろいろな活動に参画してくださいと促していく立場であり、そのためには外国人の方たちを総合的に支援していく必要があります。私たちは得てして、日本対外国、日本人対外国人という考え方をしますけれども、そのような考え方からそろそろ脱却する必要があります。そもそも外人という言葉は差別用語です。メディアも外人という言葉を使いません。外国人と呼んでいます。

日本の多文化共生政策がめざすもの

- 多文化主義的な統合政策。(cf. 同化政策)
- push and pullの原則
- 「共生」や「共生社会」: **国籍や民族にかぎらず、性別、年齢、障がい、性的指向など、さまざまに異なる人々の対等な社会参加を示す政策用語。**

外国人の方たちは、勝手に日本に来たわけではありません。push と pull の関係です。日本側から pull したわけですし、外国側も日本に行つてはどうかと push したわけです。そもそも明治維新の後、日本人はたくさん海外に移住しました。それは日本政府が push したわけです。日本は人口が多くなりすぎて貧しい状況にあるけれども、ブラジルに行つて頑張れば

自分の土地が持てるからと push したわけです。そして、今はその子孫が日本に来ています。

以上、日本にいる外国人の話をしてきましたが、多文化共生のためには、国籍や民族、性別、年齢、障害、性的志向など、様々に異なる人々が対等に社会参加できる必要があります。

2. 英文雑誌『アベニューズ』

英文情報誌 アベニューズ

1985年8月創刊。

The first issue came out in August, 1985.

中部地域の文化・歴史・伝統・生活情報などを英文で紹介。

Articles in English were about culture, history, tradition and lifestyles in Central Japan area.

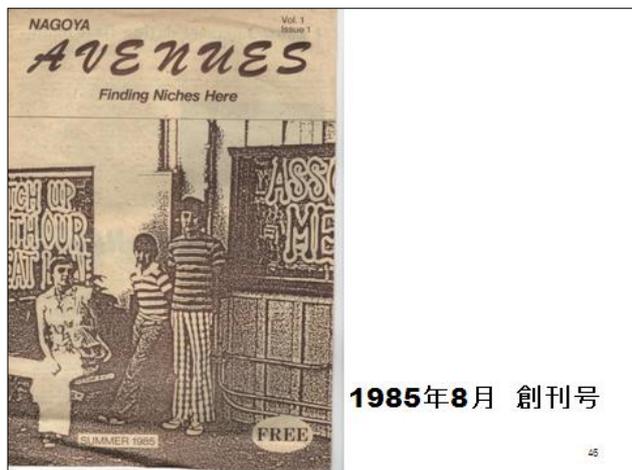
記事は主に中部地域に住む英語圏から来日した人々が執筆。

Most of the articles were submitted by the writers residing in Central Japan area from English speaking countries.

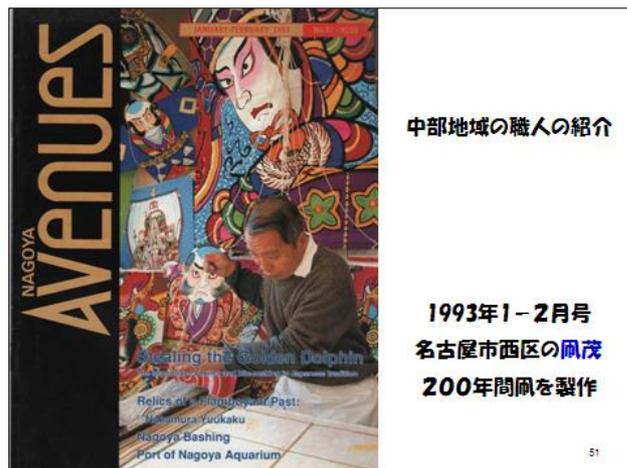
次は、私が英文雑誌『アベニューズ』でどんな記事を書いてきたかという話をしたいと思います。

外国から日本に来た人たちに聞いてみると、日本には住んでみるとややこしいことが多いと思うようです。最初にもめるのがゴミの出し方です。ブラジルではゴミの分別はしていませんから、ゴミの出し方で近所の人に注意されると、ややこしいところに来てしまったと思うようです。ですから、情報誌などを通して、外国人の方にあなたが住んでいる町はとて素晴らしいところだと伝えていく必要があると思います。いいところに住んでいると思うことができれば、ゴミの出し方をはじめとする地域のルールも、守ってみようと思ってもらえるのではないのでしょうか。

名古屋城の本丸御殿再建の動きについても紹介しました。



これは私が作ってきた『アベニューズ』の創刊号です。4ページから始めました。



名古屋にはたくさん職人がいますので、たくさんの方にインタビューに伺いました。関市の刀研磨師の方に取材に行ったり、北区にあるお相撲さんの櫓を作っているところに行ったり、半田市の国盛にはアメリカ人の記者と行きました。和菓子も取り上げました。



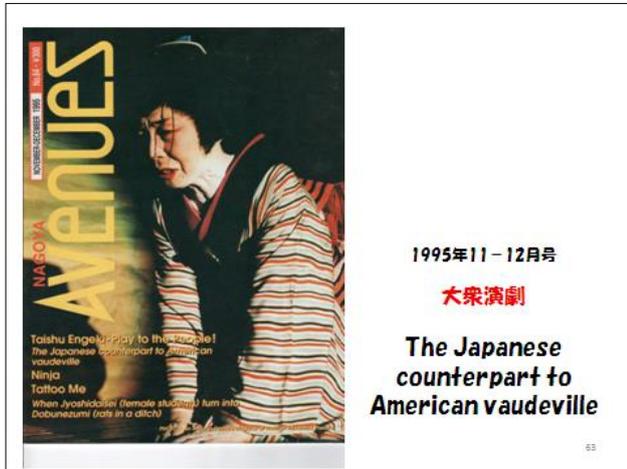
伊勢神宮は、外国人にとっても人気があるので何度も取り上げました。式年遷宮は、永遠のリニューアル、「Eternal Renewal」と表現しています。また、伊勢神宮の建物は、「forever new and forever ancient and original」と表現していきまして、建物を建てる技術を次の時代に伝えることにも大きな意味があると書きました。



有松も何度も特集しました。岐阜県可児市にある世界的に有名なギターメーカーの紹介もしました。



一方で、日本の伝統的なお見合いや結婚といった文化の紹介もしました。名古屋では娘が3人いると家がつぶれると言われていたといった話も紹介しています。今はあまり結納をしないようですが、結納の品ひとつひとつに意味があることも紹介しました。



大衆演劇についても紹介しました。ニュージーランド人の女性と一緒に取材に行ったときには、おひねりを喜んで投げていました。タトゥーの取材にも行ったのですが、オーストラリア人の女性記者は自分もタトゥーを入れてもらってきました。



これは名古屋のパチンコの紹介記事です。アメリカ人記者は、パチンコは禅の心に通じると言っていました。なぜかと尋ねたら、隣に人がいて、周りはガヤガヤと非常にうるさいのに、それが全然聞こえていないかのように無心にやっている姿は禅だと言っていました。なるほどと思っていたら、南山大学の宗教センターの先生がパチンコは「フェイク座禅」と言っていました。彼の言っていることもあながち間違いではないと思いました。



取材を行うなかで特に記憶に残っているのは、杉原千敏さんにビザを出してもらったユダヤ人の方へのインタビューです。彼はビザをもらって国外に脱出しようとしたときにナチスにつかまって強制収容所に送られたときのことを本に書いています。彼の本は日本語にも翻訳されていまして、取材を行って以降、私は杉原さんのことがとても気になるようになりました。



世界中のユダヤ人から日本のシンドラーと呼ばれて全世界の人たちから尊敬の念をむけられている八百津町出身の外交官。

八百津町で幼少時代を過ごし、その後、父の仕事の関係で三重県や名古屋市で生活する。

そこで、杉原さんが幼少期を過ごした岐阜県八百津町にある杉原千敏記念館に学生を連れて何度も行きました。



リトアニアでは、杉原さんの切手が発行されています。また、名古屋市瑞陵高校は杉原さんの出身校であることから、イスラエル公使の訪問を受けたことがあります。また、八百津町では、新人職員に対して「千畝氏研修」を必ず行うということです。

杉原さんは、ユダヤ人に日本通過ビザを出しました。ビザを受け取った人たちは、リトアニアのカウナスからモスクワ経由でシベリア鉄道を使ってウラジオストクまで行き、そこから船で福井県の敦賀に渡りました。杉原さんとゆかりのある岐阜県と福井県では、広域観光ルートとして「千畝ルート」を設けていますが、なんとイスラエルにも「スギハラ通り」という通りがあるそうです。私が取材したユダヤ人はイスラエルから来日した方でしたが、杉原さんを通して日本を見ているユダヤ人は多いと語っていました。



杉原千畝桜記念公園(ヴィリニウス)

私はリトアニアがどんなところなのか気になったので、2015年8月に行ってきました。そうすると、杉原千畝桜記念公園という立派な公園がありまして、そこには2000本の桜の木がありました。リトアニア

の人たちは、杉原千畝を知っているとか、桜の花が咲いたらみんなで弁当を持って千畝公園でピクニックを楽しむと話してくれました。

カウナスの杉原記念館へ

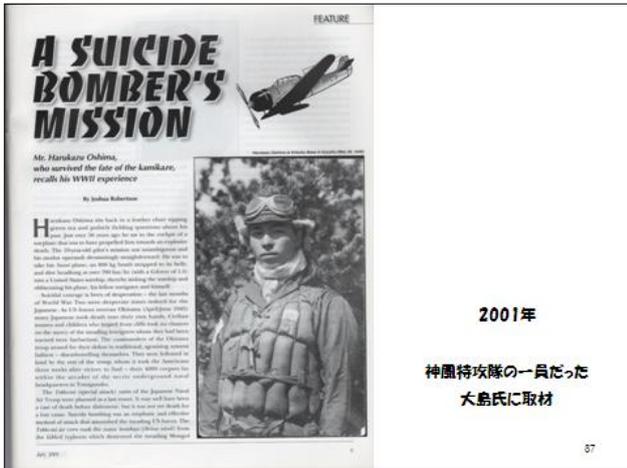


杉原さんが仕事をしていたカウナスにも行きました。杉原記念館の館長さんは、杉原さんをととても尊敬していると言っていました。また、館内にはビザも展示してありました。



リトアニアのカウナスには、たいへん多くの日本人が訪れています。記念館では、来訪者にどこから来たのかを尋ねて、日本地図にピンを打ってもらっているようですが、特に岐阜県からの来訪者が多くなりました。これに対して、日本を訪れたイスラエルの人が最もよく訪れているところは岐阜県です。なぜイスラエルの人が岐阜に来ているのだろうと思って調べてみたら、やはり杉原千畝記念館があるからだとなりました。

これはイギリス人の記者が書いたものですが、この方も日本が大好きで、名古屋の歴史を古墳時代から書いてくれました。



『アベニューズ』では、その他にもいろいろなことを取材しておりまして、神風特攻隊についても取材しました。この方は飛び立ったけれども、海に落ちて助かったという方です。彼が飛び立ったのは8月15日の終戦の日だったそうです。



山車についても、何度も取り上げましたし、からくり人形の記事も書きました。



また、外国の方は日本のお祭りも好きです。これはアンソニー・ビアンキさんという方が書いた記事です。この方は、日本が大好きで日本国籍をとられ、今は犬山市の市議会議員をされています。



これは、有松の絞りまつりを取り上げた記事です。この地域には本当に素晴らしい祭りがたくさんあります。

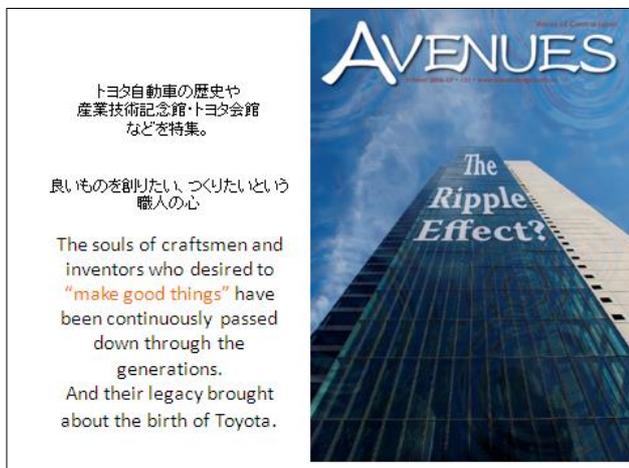


尾張は、江戸時代に七代藩主徳川宗春が遊ぶことを

奨励したからこそお祭りが盛んになり、からくりも盛んに作られるようになりました。やがて、それが豊田佐吉さんの自動織機の発明につながったのだという話を外国の人たちにも伝えたいと思っています。この地域にたまたまトヨタ自動車ができただけではなく、名古屋城があり、家康がいて、宗春がいて、技術が伝えられたのだということを伝えていきたいと思っています。



日本のロボットは人間的です。ドラえもんも鉄腕アトムも少しドジで弱いところもあります。そういうところが日本的です。西洋には、時計台などに見られるオートマタと呼ばれる人形がありますが、それは人間のマネをするだけのものです。西洋人は人形に感情があるという発想をしません。ロボットとともに生きていくという考え方は日本独特のものようです。



トヨタ自動車の歴史も掲載しました。これからもこの地域における歴史に根付いたものづくりの文化を紹介したいと思っています。

3. 愛知万博一市町村一國フレンドシップ記録映画製作事業

次に、2005年の愛知万博で映画を作ったときの話をします。21か国から映画監督を招きまして、愛知県内の19の市町村にホームステイをしてもらいながら記録映画をつくりました。そのとき、私はプロデューサーを務めました。



21か国の監督と半年間にわたって仕事をしたことは、私の人生で二度とないことだと思いますし、彼らが見た愛知の姿は、私にとってたいへん新鮮で面白いものでした。



彼らはこれら19の市町村に滞在しました。また、審査員は私の子どものころからの友人である女優の竹下景子さんをお願いしました。竹下景子さんは、愛知万博の日本館の総監督をされていてとても忙しかったのですが、ボランティアで審査員を引き受けてくれました。とても楽しい思い出となりました。



映画制作に参加してくれた監督に、なぜこのプロジェクトに応募したのかと尋ねたところ、黒澤明の映画で見た日本に行きたかったと多くの方が言っていました。みんな映画好きの方です。リトアニアの監督からは杉原千畝記念館に行きたいから八百津町に連れて行ってくれと頼まれました。

一市町村一国フレンドシップ記録映画製作事業
Friendship Film Festival

成果: Achievements

- **映画のロケ地**となることで地域の資産を再発見。
- **異文化のまなざし**を意識することで日本の文化や景観について再発見した。
- 各地域で**映画監督との交流**が生まれ、継続している。
- 各監督は自国でも上映し、**各地域のホスピタリティについても話題**に。
- 地域から世界へ向けての**映像を通しての発信**。

記録映画を製作することによる成果としては、映画のロケ地となることで地域の資源の再発見につながりました。また、異文化のまなざしを意識することで、日本の文化や景観の再発見がありました。各地域で映画監督との交流が生まれ、監督は自国に戻ってからも各地域のホスピタリティを話題にしてくれました。映像を通して地域から世界への発信もありました。ヨルダンの監督がホームステイした春日井市では、当初、市民はヨルダンがどこにあるのかも知らなかったのですが、ヨルダンに対する理解がとても深まりました。映画をつくるとなると、どんな映画だろう、映画監督はどんな人だろうとみんなが関心を持ち、注目しますから自ずと交流が生まれます。

4. NPO 法人「愛知善意ガイドネットワーク」

私はいろいろな団体の代表をしております、ボランティアで観光ガイドも行っています。愛知県を雑誌で紹介し、映画で紹介し、ボランティアで紹介しているということです。

特定非営利活動法人
愛知善意ガイド ネットワーク
Aichi Goodwill Guides Network

定期的に開催しているガイドツアー AGGN's Nagoya Castle Tour
名古屋城

実績: 2016年度 88カ国 のべ4072人にガイドを行った。

愛知善意ガイドネットワークでは、メンバーが毎日名古屋城を案内していきまして、2016年度は88か国の人にガイドを行いました。

特定非営利活動法人
愛知善意ガイド ネットワーク
Aichi Goodwill Guides Network

400年の歴史を持つ続りの町
名古屋市長区有松での浴衣交流会

トヨタ産業技術記念館や熱田神宮、有松も案内しました。有松では、浴衣を着て一緒に有松のまちを楽しみました。このように交流を深めていきたいと思っています。



クリス・グレンという方をご存知でしょうか。タレントであり、ZIP-FMのDJをしている方ですが、彼は身長が190cmくらいあるのですが、お城とサムライが大好きで、自分の身体に合わせて鎧兜を作っていました。その着方にもこだわりを持っているのですが、鎧兜を身につけて講演をしてもらったこともあります。彼はあまりにもサムライが好きで、出身地であるオーストラリアでもサムライフスティバルを企画し行っています。



私は多くの人にいろいろな体験をしてもらいたいと思っておりまして、金城学院大学の留学生を有松に連れて行って絞りを体験してもらったりしています。とてもいい思い出になります。

5. 「多言語情報翻訳システム」の開発の経緯とシステム



阪神・淡路大震災に話を戻します。これは震災の取材を行ったときの記事ですが、被害の大きさに本当にびっくりしました。あの光景は今も目に焼き付いています。

阪神淡路大震災における兵庫県内の国籍別死亡者(単位:人)

被災地	全体	日本	韓国朝鮮	中国	アメリカ
住居者	3,589,126	3,513,038	55,648	12,472	1,951
死亡者	5,476	5,293	121	44	8
死亡率	0.15	0.15	0.22	0.35	0.10
被災地	ブラジル	インド	ベトナム	フィリピン	その他
住居者	1,806	1,025	955	874	—
死亡者	8	0	0	2	6
死亡率	0.44	0	0	0.23	—

出所:酒井道雄著、『神戸発阪神大震災』、岩波新書、1995年、88～89頁。
<http://nippon-zaidan.info/seikabutsu/1995/00786/contents/100.htm>

→ 外国人は災害弱者
→ 外国人は情報弱者

阪神・淡路大震災では、外国の方もたくさん亡くなりました。当時、外国の方たちにとっては、まず情報がありませんでした。

外国人は震災弱者であった

死者の3.14%は外国人
(神戸市の平均外国人登録者数は人口の2.9%)

- ・ **日本語による情報を理解できなかった。**
- ・ **法的立場：超過滞在などの問題により、公的な避難所に行きにくかった。**
- ・ **医療費の問題：健康保険に加入していない外国人負傷者。**

阪神・淡路大震災では、外国の人たちは震災弱者であることが明らかになりました。ある外国人の方は、古いアパートに住んでいて、地震発生時にものすごく揺れたため、慌てて表に飛び出したところ、みんなが同じ方向に歩いていたのでそれについていったそうです。着いたところは小学校で、そこは避難所になっていました。しかし、その方は外国人だからそこに入ってはいけないと思い、アパートにもどったそうです。そうしたら、スピーカーのついた広報車が何か言いながら走っていたけれど、何を言っているのか全然理解できなかったのです。そのままアパートに残っていたということでした。後で聞いたら、それは、この近くのガスタンクが爆発するかもしれないので、危険だから早く逃げてくださいというアナウンスだったそうです。幸い爆発はなかったのですよよかったのですが、情報がないことは命の危険と密接につながるということです。

多言語情報翻訳システムの 研究開発

- 阪神・淡路大震災では、日本語の不自由な外国人は情報遮断状態におかれた。
- 外国人が必要とする防災情報の各種を定型化し、日時、場所などをローマ字または数字で入力すれば**正確・迅速に多言語に翻訳するシステム**を提案。

そのようなことがありまして、名古屋大学の大学院で先生方と一緒に「多言語情報翻訳システム」を作りました。これは、阪神・淡路大震災で被災された外国人の方から、彼らが必要とする情報を集め、カテゴリーごとに分けた上で一発翻訳できるようにしたシステムです。

愛知県多言語情報翻訳システム

- 「災害情報」と「生活情報」を多言語にテンプレート翻訳するシステムを共同開発。
- 翻訳言語: 英語・中国語・ポルトガル語・ハンガール・スペイン語。
- (財)愛知県国際交流協会のウェブサイトにて公開。
www.aia.pref.aichi.jp/mlis/

多言語情報翻訳システムは、現在(財)愛知県国際交流協会の Web サイトで公開されています。

外国人を災害弱者としないために

- 外国人への**多言語による情報提供とルート**の整備
- 防災に対する知識の普及と防災訓練の実施
- 定期的な連絡会の開催
- 日頃から、外国人と地域の日本人が知りあう機会を持つことへの支援

緊急時の情報提供は最も大切です。情報が伝わらなければ、生命に関わる問題が生じることも考えられます。しかし、緊急時にこのようなシステムがあればいいかと言うと、そうではありません。みなさんが外国人の人たちのことを気にかけて、声をかけることが大事です。日頃から外国人と日本人がいろいろなつながりを持っていると、あの人はどうしているかしらと心配し、連絡をとりあって安心することができます。避難所には、英語やポルトガル語、スペイン語、中国語などで、そこが避難所であることを示した貼り紙をしておけば、外国人の方もそこにいいことが伝わります。情報提供とともに人と人とのつながりが大事です。

日本語教室

- インターネット環境が“ない⇒情報収集手段は主に携帯電話と地域の日本語教室に頼っていた。
- 様々なツールを活用した多言語情報発信の必要性。
- 地域の日本語教室か“在住外国人のセーフティネットとして頼もしく機能。

福島県で調査を行ったところ、結構たくさん日本語教室がありました。こうした日本語教室が大事です。ボランティアさんが結構いますが、日本語教室の方が外国人の方の実態を一番よく知っています。

災害時: 知り合いの外国人の状況を 確認しよう

連絡をしてみる。
状況を確認する。

- いまどこにいるか。誰と一緒にいるか。けがや病気はないか。家族や必要な人に連絡は取れているか。必要なものはないか。困っていることはないか。悩みや不安なことはないか。
- 自分で対応できない場合
- 身近に、他に支援してくれる人はいないか探してみる

みなさんも災害が起きたら、知り合いの外国人の方に連絡をとってみたい、状況を確認してみたりしてください。あるいは、外国人が集まっていそうな場所を日頃から確認しておくといったことも大事だと思います。

理解しづらい緊急時の日本語

- ある程度日本語を理解する事が出来る人も、緊急時の日本語は理解しづらい。
- やさしい日本語の必要性。
- <https://www9.nhk.or.jp/archives/311shogen/summary/evi/12/>

情報提供は、やさしい日本語で行うことが大事です。「震度5の地震が発生いたしました。至急避難してください」と言われても、外国人の方は誰も理解できません。「大きな地震が起きました。建物が倒れるかもしれません。早く逃げてください」と言えば理解できます。「高台に避難してください」と言われても外国の方にはわかりません。「高いところに逃げてください」というようなやさしい日本語で行う必要があります。

壁のない世界の構築に向けて

- 世界には「民族、宗教、不寛容といった壁」がある。(村上春樹 2014年11月。ドイツの文学賞を受賞。)
- 単なる偶然的な遭遇で“はなくて、よく準備された交流の必要性。断片的な情報しか伝わらない状況下で“は、〈異なるもの〉への恐れから人間は妄想を膨らませか“ち→見知らぬ社会に生きる人間に対しても同様。

宗教の話に戻りますが、まず壁のない社会を構築することが大事です。「世界には民族、宗教、不寛容といった壁がある」と作家の村上春樹は言いましたが、その壁をいかに低くするか、なくしていくかということ私たち一人一人が考えなくてははいけないと思います。外国人の方とたまたま出会うという方法でもいいのですが、準備をして交流を行うと、より意味のあるものになっていくと思います。私たちは異なるものに対しては、知らないがために妄想を膨らませてしまいがちであり、イスラムについても知らないがために怖いと思ってしまうかもしれません。しかし、そうではなくて、交流によって、理解を深めていく必要があるのではないかと思います。

文明の衝突を超えて
共感の輪を広げよう



- 国際平和に依拠し、資源・食料を海外に依存する日本にとって、国民の生活を守り自国にとって好ましい国際的環境を構築するなど、国民の利益の増進に貢献している。
- 日本が国際協力を行うことは、国際社会の一員としての責務。

出典:外務省ホームページ

そのためには、共感の輪を広げることです。最初にお話しましたように、日本の人口はどんどん減っています。一方で、世界の人口は爆発的に増えています。私たち日本人は、資源や食糧を海外に大きく依存しています。国際協力、あるいはこの地域に住んでいる外国の人たちに手を差し伸べることは、回り回って平和につながり、私たちの生活を守ることにつながるといふ発想が必要だと思います。日本人は血統主義ですが、このままでは日本の未来は見えてこないと思います。多文化共生というと、日本にいる外国人にやさしくすることと考えがちですが、人口問題についてもっと戦略的にシリアスに考えて将来を構築していかなければならないと思います。

様々な文明と共存していくすべを学んでいこう!



最近、『限界国家』という本が出ました。限界集落という言葉がありますが、それは人が住まなくなって維持できない集落です。次は国家レベルでそれが起きると毛受敏浩という方が書いています。私たちは、人口が減ることが日本にどんな状況をもたらすかということを考えていかななくてはならないと思います。私

たちは様々な文明と共存していくすべを学んでいく必要があります、そのためにはやはり宗教への理解が大切だと考えています。

講師プロフィール

佐藤 久美 (さとう くみ)

博士 (学術)。

金城学院大学 国際情報学部国際情報学科 教授

南山大学外国語学部英米科卒業、名古屋大学大学院博士課程修了。

主な研究テーマとして、異文化コミュニケーションと多言語情報提供、観光によるまちづくりと地域活性化、国際文化と多文化共生などがある。

愛知県防災対策有識者懇談会委員、ナゴヤ・プロモーション会議 (名古屋市) 委員、認定 NPO 法人「アジア車いす交流センター」理事、NPO 法人「愛知善意ガイドネットワーク」副理事長などを務める。

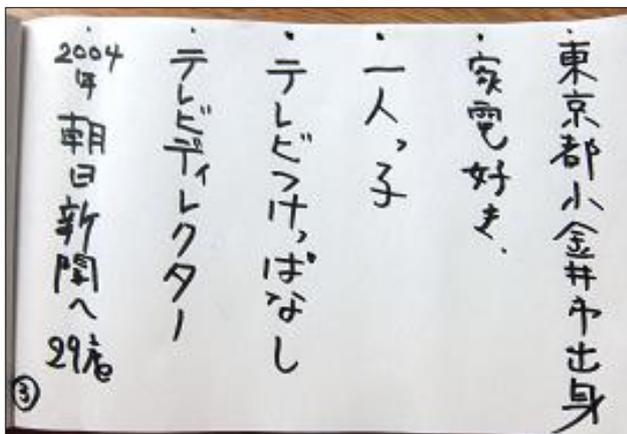
〔講演記録〕

省エネ・節電、続けてますか？

朝日新聞文化くらし報道部 be 編集部記者 齋藤 健一郎

1. はじめに

こんにちは。齋藤健一郎と申します。今日は東京から来ましたが、この春まで名古屋本社の社会部に3年半いまして、名古屋のみなさんにお世話になっておりました。今日は、わかりやすく、楽しい話を心掛けたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



はじめに、僕がどういう人物であるのか、簡単にお話ししますと、東京都の小金井市で生まれ育ちました。東京都は横に平たい形をしていまして、小金井市はそのほぼ真ん中、新宿から中央線で20分くらいのところにあります。かつて首相をされた管直人さんの地盤で、市民活動がさかんな土地に育ちました。両親は公務員で、僕は一人っ子でした。昼間、両親は家にないので、生後4か月くらいから保育園に入っていました。小学校に入ってから、学童保育に行き、帰ってきててもまだ一人。そんなわけで、家に帰ってきたら、さびしいので必ずテレビをつけるという暮らしを大人になるまで続けていました。

大学には6年間行きまして、その間、中国の新疆ウイグル自治区、今は民族紛争で問題になっている地域

ですが、シルクロードにあこがれて、大学時代の1年間留学していました。中国から帰国するときには、せっかく中国の西端にいるのだからと思い、自転車に乗って帰ってきたこともありまして。そんな大学生活を送っているうちに6年が過ぎてしまいました。就職活動では、朝日新聞やNHKを受けたのですが、みんな最終面接で落ちました。1次や2次面接で面接官をする現場の記者には、おもしろいやつだと思ってもらえたようですが、最終面接をする取締役クラスには危ないやつだと思われたのかのかもしれない。就職したのは、テムジンという社員20人くらいのテレビ番組の制作プロダクションです。海外ドキュメンタリー番組を作っていて、いろいろな賞も受賞している少数精鋭の制作会社で、そこで鍛えられました。

ただ、30歳を前に、僕が本当にやりたかったことはなんだろうと、もう一回考えて、やはり書くのが好きだったので、新聞記者になりたいと思い、社会人試験を受けました。朝日新聞の記者になったのは、29歳のときです。

2. 5アンペア生活とは

今日はとてもタイミングがよく、ちょうど昨日(2017年8月1日)、5アンペア生活の記事が2年2か月ぶりに新聞に出たばかりです。朝日新聞には今風当たりが強いので、ネットを見ている人たちがさっそく反応を示しています。端的に言うと、「馬鹿だ」とか、「アホだ」、「妻を虐待している」といった言論があつて、僕はなぜこういうふうになってしまうのだろうと思っています。



5 アンペア生活とは、簡単に言うところのような家電が使えなくなる暮らしです。これは僕が5 アンペア生活をはじめた2012年7月に撮った写真です。家電が積み上がっていますね。一番上は、魚を焼くロースター。その下が、電子レンジとトースター、その左下に写っているのが炊飯器です。これは母に買ってもらったもので、おどり炊きが売りになっている超高級な炊飯器です。10万円ほどします。積み上がったこれらの家電は5 アンペア契約にすることで、全部使えなくなった家電なのです。ここを僕は家電墓場と呼び、部屋の隅に積み上げていました。

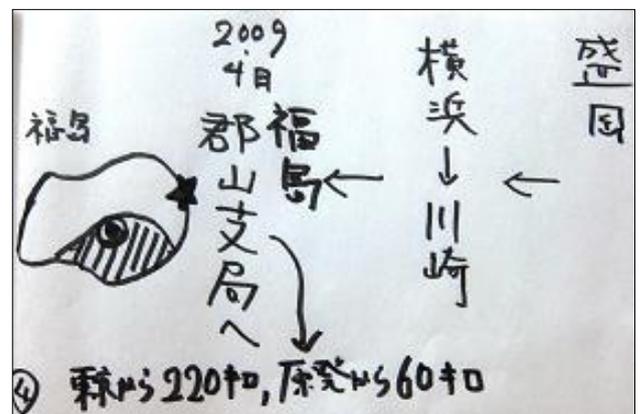
電気やガスは携帯電話と同じで、電力会社と使用契約をしています。そこで一度に使える容量を決めています。我が家ではそれを最低の5 アンペア、つまり、一度に500W までしか電気が使えない契約にしたということです。

5 アンペア契約のマイナス面ばかり話しましたが、メリットもあります。一番のメリットは基本料金がからないことです。0円です。みなさんは意識の高い方が多いので、自宅の契約が何アンペアなのか、ご存じの方が多いと思います。使用量の多い方は60 アンペア、オール電化にしている方だと90 アンペアの方もいるかもしれません。一般的な家庭は、30 アンペアか40 アンペアとされています。30 アンペアの基本料金は800円くらいです。全然電気を使わなくても、800円程度かかります。40 アンペアの基本料金は1200円くらいです。5 アンペア契約は、一度に使える電気の量は少なくなるけれども、その分、基本料金は0円になるという家計的なメリットがあります。中部

電力はホームページに5 アンペアの契約があることを載せていますが、東京電力は載せていません。

5 アンペア生活をしていることを公言した人は、日本では僕が初めてだと思います。では、なぜ僕が5 アンペア生活をはじめたのか、その理由について簡単にお話ししたいと思います。

全国誌の記者は、入社後、最初から名古屋や大阪、東京といった大きな都市に行くことはなく、地方で修業を積みます。僕が最初に赴任したのは盛岡でした。そして、2年半で横浜総局に転勤になり、川崎に行き、福島県の郡山市に行ったのが2009年4月です。言わなくてもいいことですが、盛岡、横浜は社内的には将来の出世にとってもいいところです。盛岡でがんばったと評価されて、社内的にはキラキラと輝いている若者の登竜門的な横浜総局に行きました。ところが、僕は事件の取材が苦手でした。例えば新聞に事故や事件で亡くなった方の写真が掲載されている時があります。あれは自然にあったものではなくて、我々記者が集めたものです。掲載の前には記者の血のにじむような努力があるわけです。僕は被害者の方の写真を集めたり、事故現場にすぐ行って、お気持ちはどうですかと聞いたりすることがなかなかできませんでした。横浜総局当時の同僚は、みんな本社にご栄転されたのですが、僕だけは福島県の郡山市に異動しました。



これは福島県の地図を手書きしたものです。福島県のちょうど真ん中あたりの「◎」の書いてあるところが郡山市です。交通の要衝であり、経済の中心であるところです。「★」が書いてあるところは、事故を起こした東京電力の原発のあるところです。

事件も事故も多い横浜を離れて、僕は郡山で大変幸

講演記録

せな記者生活を送っていました。柔らかい記事を書くのが好きなのですが、なんとなく心も軽やかになって筆が乗り、福島県内ではすごく幸せな生活でした。ただ、東日本大震災が発生し、原発事故が起きました。



ここは一人で住んでいた郡山の家です。よく見ると壁にひびが入っています。あまり知られていませんが、郡山も震度6強の揺れでした。内陸でもダムが決壊して集落ごと流されるなど、かなりひどい被害が出ました。僕の借りていた家も半壊しまして、思いがけず地震の被災者になりました。

家が壊れたことよりも何よりも苦しかったのは、原子力発電所の事故です。事故は3月11日でしたが、4月になると、東北の被災3県のなかでも、岩手、宮城では、学校がはじまったというような明るいニュースが出てきました。でも福島だけは、1か月たつことで原発事故のあり様や影響がだんだんとわかってきて、どんどん状況が厳しくなっていました。



これは半壊になった家の横にある小学校です。日本で初めて校庭の表土をはぐという作業が行われました。なぜなら、放射線量がすごく高かったからです。この周辺がホットスポットになってしまい、ふだん子

どもが遊んでいる小学校の校庭にも重機が入りました。子どもたちは、みんなマスクをして教室から校庭の表土をはいでいる様子を見ていました。

新聞記者としてこの地で働いていた僕は反省の気持ちがありました。このときも本当に申し訳ない気持ちでした。ジャーナリストとして、交通事故とは異なる甚大な環境被害をもたらす可能性のある原発が県内にあったにもかかわらず、一言も警告を発することなく過ごしてきてしまったことに対する後悔です。本当に申し訳なかったという気持ちで、原発事故後の半年間、毎日取材しました。

高濃度の汚染土はどうなったかという、市の郊外の産廃処理場に持っていくことになりました。すると、当たり前ですが反対運動が起きました。「東電に返せばいいじゃないか」、「国に返せばいいじゃないか」という議論になり、持ち出せないままいったんビニールシートをかぶせて放っておかれ、結局、校庭に穴を掘って埋めることになりました。

当時、僕は何もわかっていなくて、線量計を持ってこのビニールシートの山に登っていたのですが、その放射線量は12マイクロシーベルトという、ものすごく高い値でした。二度とあってはいけない事故ですし、逆に言えば、地震があっても、火山が噴火しても、なぜ日本では原発を再稼働させる方向に世の中が進んでいるのか、今でも強く疑問に思っています。そして、それが節電生活を続ける気持ちの基本になっています。



震災の半年後に東京に戻ってきました。そして、東京本社文化くらし報道部という生活面の記事を書く担当になりました。最初のころはうれしかったので

講演記録

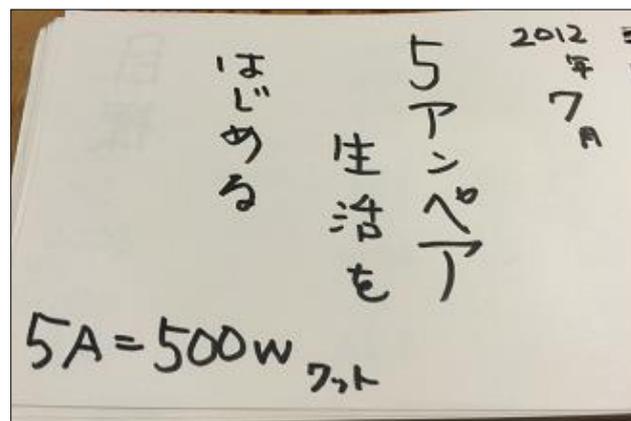
すが、暮らしていくうちに、自分のなかにむくむくと怒りややるせないという気持ちが湧いてきました。それは、まだ震災から半年しかたっていないのに、東京の街が正常に動いていたからです。

朝日新聞は東京の築地にあって、すぐ横が銀座なのですが、夜の街はギラギラと輝いていました。一見して電気をもものすごく使っていると感じました。福島から来ると強い違和感を覚えました。事故のときは、東京の山手線も照明を半分に落としていました。渋谷の交差点も照明を落としていて、東京の人も気づいたんだと思いました。みなさんをご存知のように、福島で作った電気は首都圏に送られていました。言ってみれば、東京は地方に負担を押し付けて、電気を享受していたわけです。その東京が何もなかったように元に戻ってしまっていることにものすごく違和感を覚えました。

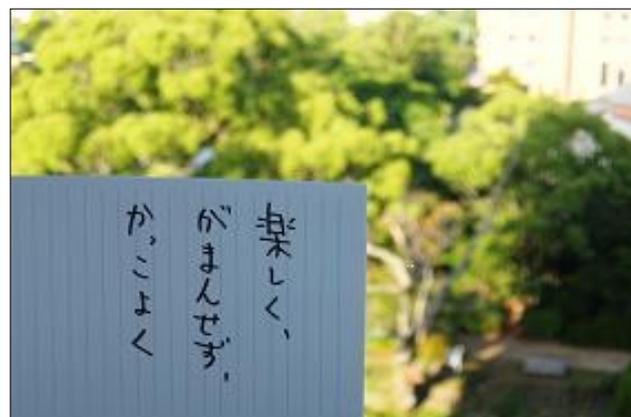
決定的だったのは、2012年6月、当時の民主党の野田首相による関西電力大飯原発の再稼働でした。再稼働する理由は「国民の生活を守るため」でした。福島の人たちの暮らしをあれだけずたにした原発を、「国民の生活を守るため」に再稼働するというのは話が反対ではないかという衝動的な怒りが湧いてきました。それなら、「僕は電気なしでやってみよう」、「電気なしでも暮らせるんじゃないか」と、突発的に思ったわけです。深い考えがあったわけではなく、東京電力との契約をゼロにして暮らしてみようと思いました。

では、契約をゼロではなく、なぜ5アンペアにしたのか。同僚にその話をしたら、「それはおかしいでしょう」と言われたからです。「パソコンはどうするの?」、「スマホの充電はどうするの?」。「会社でやればいい」と答えたら、「すべての電源を他人に頼るのはおかしい」、「自分の家だけゼロにして、他で使っている意味がない」と言われ、その通りだと思いました。それなら、最低契約の5アンペアにして、消費者としての責任を持ちつつ暮らそうと思い、はじめたのが5アンペア生活です。

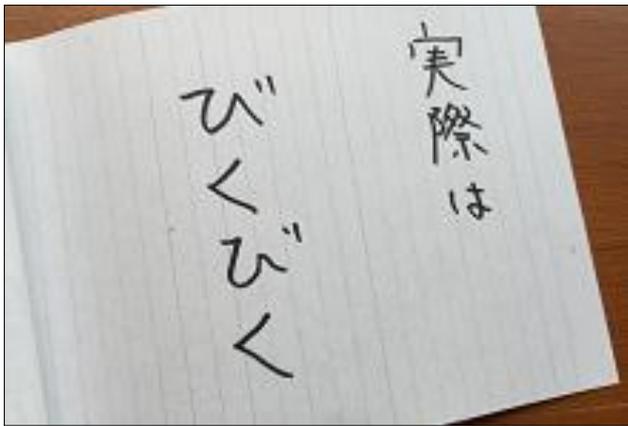
3. 5アンペア生活をはじめ



2012年7月、5アンペア生活をはじめました。電気を一時に500Wまで使える生活です。はじめるにあたっては、当然、目標を立てました。がんばって、汗水たらして、健康を害してまでやれば、たぶん誰にでも節電することはできると思いますが、それではほかの人に広まらない。5アンペア生活を広めることが目的ではなかったのですが、可能ならほかの人にもどんどん提案したいという気持ちもありました。

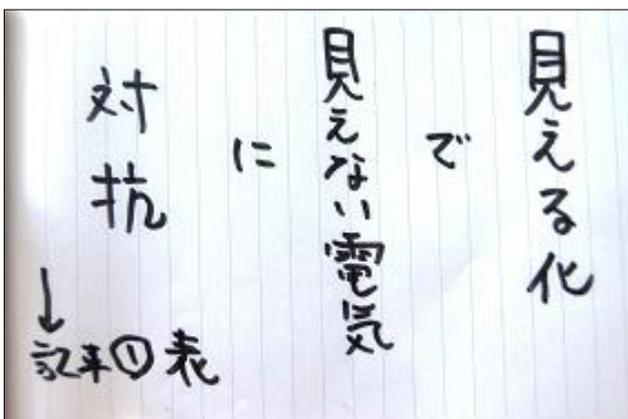


そこで、「楽しく、がまんせず、かっこよく」を目標にしました。手拭いを巻いて、だらだらと汗を流しながらやっていたら、若い女性に支持されないし、もてないでしょう。当時、僕は独身だったので、「かっこよく」も目標に入れました。



ただ、そんなにうまくいくはずはありません。それまでジャブジャブと電気を使っていたから。ビデオデッキだけでも3台くらい持っていましたし、一人暮らしなのに42型のハイビジョンのテレビを見て、それでも足りずスピーカーもそろえていました。そんな人が急に節電の道に入ってからかこよくやろうとしても、実際はもう5アンペアしか使えませんから、うまくいくはずがありません。

最初にあせったのは洗濯機をかけるときです。独身だったので、働いて家に帰ってきてから洗濯するのですが、5アンペアでどこまでやれるのかわかりませんでした。ブレーカーが落ちたら東京電力との勝負に負けだと意気込んで、夜でしたが、家じゅうの家電のコンセントを全部抜いて、真っ暗ななかで洗濯を始めました。45分かかりました。一通り終わって、大丈夫、割といけるじゃないかと思いつつ、洗濯物を取り込んで居間に戻ってきたときに、こんなことをしていたら5アンペア生活は続かないと思いました。

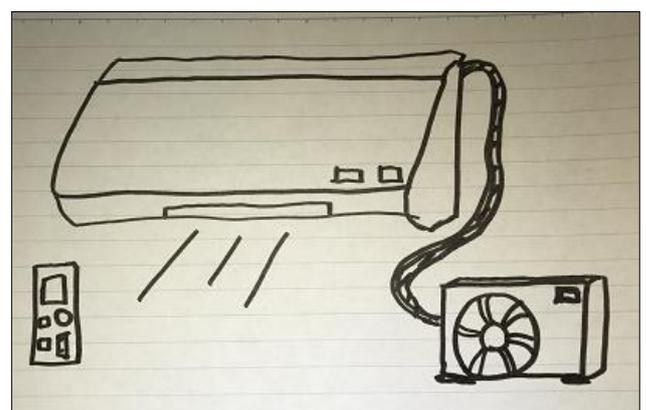


びくびくから脱するために最初にやったのが「見える化」です。目に見えない電気を「見える化」する方法があります。それが消費電力計です。「5アンペアで

暮らししてみた」という、2012年7月に最初に書いた新聞記事にも載せたのですが、インターネットで「ワットチェッカー」と入力して検索すると、2000円くらいから売られています。これを使うと、今どの家電がどれくらいの電気を使っているのかが数値でわかります。



消費電力計で計って書いたのが「5アンペア生活ビフォーアフター」の表です。見えない敵に挑むのに、相手のパワーがわからないとときどきしますが、消費電力計を使うことによって、照明をつけたままでも掃除機をかけられることがわかりました。たぶん、ホームセンターでも売っています。使ってみると、結構楽しいです。たとえば、掃除機には300Wとか400Wと消費電力が書いてありますが、消費電力計を使うことによって、どういう動きのときにどれだけの電気を使っているのかがわかりますので、「見える化」はおすすめです。みなさんにもぜひ使っていただきたいと思います。



このイラストは妻が書いてくれました。エアコンです。エアコンは 10A、1000W を超えますから使えなくなりました。それまでは、何も気にすることなく、居間に寝転んでピッとリモコンを押したら、涼しくなっていました。それができませんから、扇風機を始終体から離さず、風を当て続けました。ずっと風を当て続けると体に悪いと言われますが、本当に暑いときはきれいごとを言っていないでください。

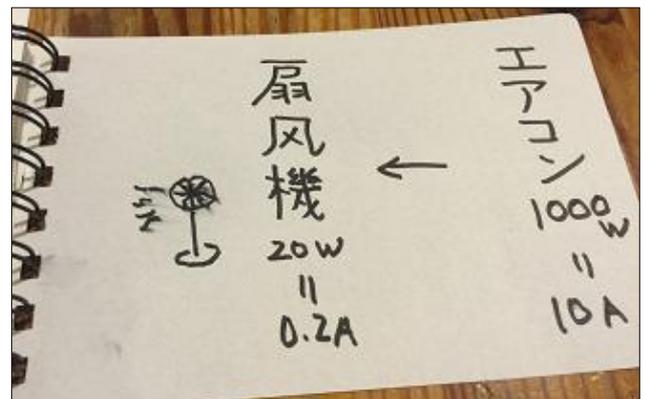
最近、ホームセンターでは、涼感シーツといった名前で化学的に作られた寝具が売られていますから試してみました。僕の実験によると、化学的に作られたものは気温が 35℃ を超えると、逆に熱を持って熱くなります。びっくりしました。涼感シーツは、エアコンをつけて、ある程度室温が下がっている部屋で使っはじめて冷たくなるのであって、室温が高いと発火するように熱くなりますから気をつけてください。



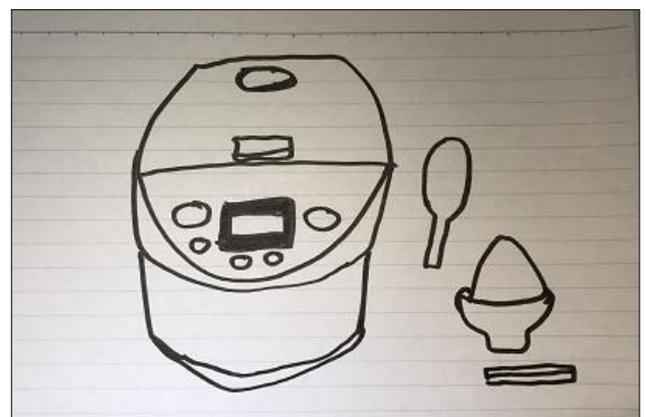
その点、イグサはとってもよかったです。もちろん発火することはありませんし、汗を吸収してくれます。なにしろ涼しいので、布団に敷いてこのように使っています。

当時はまだ 30 代。それまでエアコンがないと生きていけないと思っていましたが、意外とやれると思えました。ただ、35℃ を超えると厳しくなってきます。そのときはどうしようもないので、昔ながらの行水をします。昔は電気がありませんでした。一般の庶民にまで電気が普及するようになってから、まだ 100 年くらいです。それで、夏になると行水をして涼を得ていたわけです。行水はとてもいいものです。今はタライではなくシャワーがありますから簡単に何回でも行

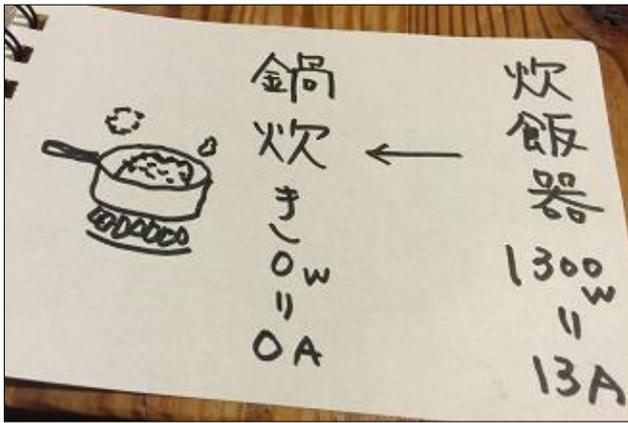
水できます。行水した後、身体の水滴を全部きれいに拭きとってはだめです。妻には嫌がられますが、少しぬれそぼった姿で出て扇風機の前ですわると、圧倒的な涼感がやってきます。ものすごくいい気持ちです。こんな涼しさがあったのかと思うほどの、北アルプスの 3000m 級の山のすがすがしさがありませんので、ぜひ試してみてください。これだけで節電成功です。



エアコンは 10A、1000W を使いますが、扇風機はものすごく省エネ家電です。扇風機の消費電力はとても小さく、 $0.2A = 20W$ くらいなので、みなさんにも扇風機をうまく使っていただきたいと思います。エアコンをつけているときも、扇風機をつけて空気をまぜた方がいいと思います。



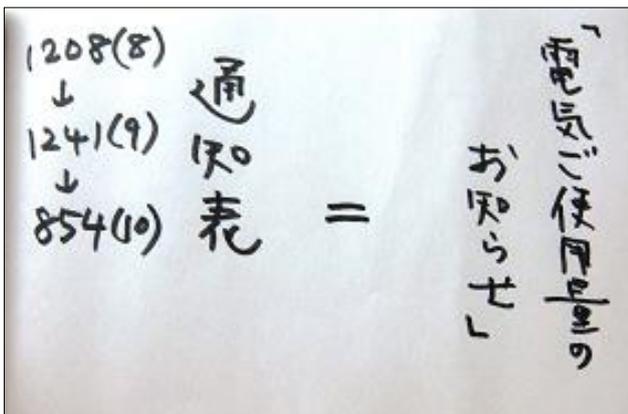
これは炊飯器です。僕が使っていたのは、13A、1300W を使う、最新式の技術をつぎ込んだと思われるおどり炊きの炊飯器です。スイッチを入れると、炊いていますよと言わんばかりにゴオーと蒸気を吹き上げてものすごくアピールしてきます。



炊飯器をやめて、鍋でお米を炊くことにしました。そうしたら、とてもおいしかったんです。最新の炊飯器よりも早く炊けて、しかもおいしい。びっくりしました。最新の家電が一番いいと信じ込んでいたのですが、もしかしたら、それはメーカーの術中にはめられていたのかもしれないと、このときはじめて思いました。

家電メーカーはその時々が一番いいと思うものを世の中にリリースしているはずですが、最新モデルであっても3年後には古いモデルになって売れなくなります。だから、なんだかんだと新しい機能をつけて、消費者の購買意欲をあおるといふ、そういうサイクルの中に自分もいたのだと、そのときわかりました。僕が東京で所属していたのは料理も紹介する部署です。料理を担当する記者4人のうち3人は電機炊飯器を使っていませんでした。鍋で炊いた方がおいしいし、早く炊けるからです。本当においしいものを食べたいと思っている人が炊飯器を使っていなかったのです。

このようにして、いろいろな家電を手放したのですが、そのたびに代替のものが現われました。

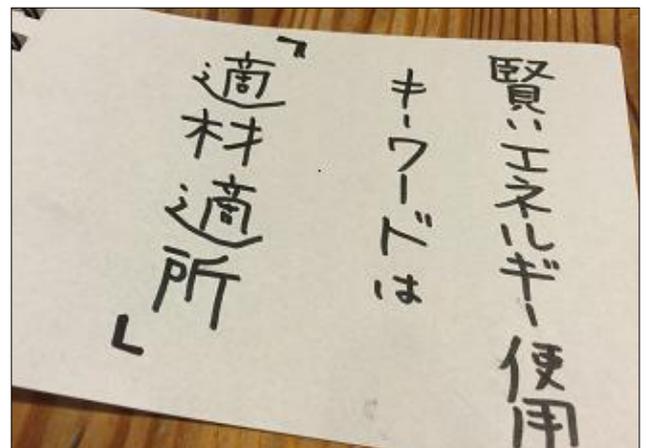


これは5アンペア生活をはじめたころ(8月、9月、

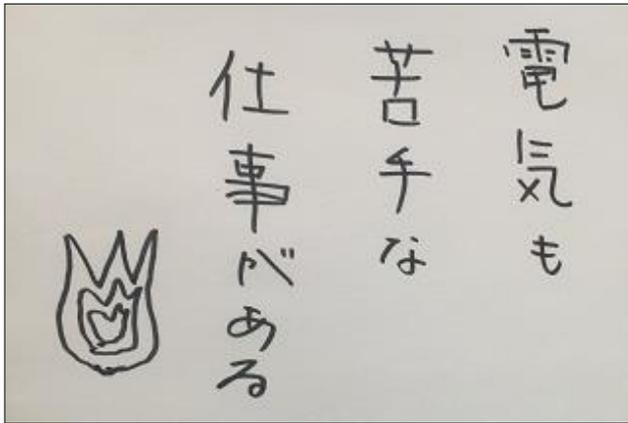
10月)の電気料金の推移です。それまで一人暮らしで4000~5000円くらい使っていたのが、あっという間に1/4くらいになりました。8月より9月の電気料金が高くなっているのは、禁断症状が出たからです。この年はロンドンオリンピックの年で、だめだと思いつつもながらもテレビを見てしまいました。ロンドンとは時差があるので、夜中にテレビをつけて、そのまま寝込んでしまったため電気料金が上がってしまいました。

数字はものすごく正直です。ちょっと頑張りが足りないと、すぐに成績にはね返ってきます。僕は「電気使用量のお知らせ」は、通知表のようだと思っています。使用量が減ると、ものすごくうれしくて、やりがいもあります。今もそうですが、当時、毎月東京電力から届く「電気使用量のお知らせ」を楽しみにしていました。

4. エネルギーの「適材適所」

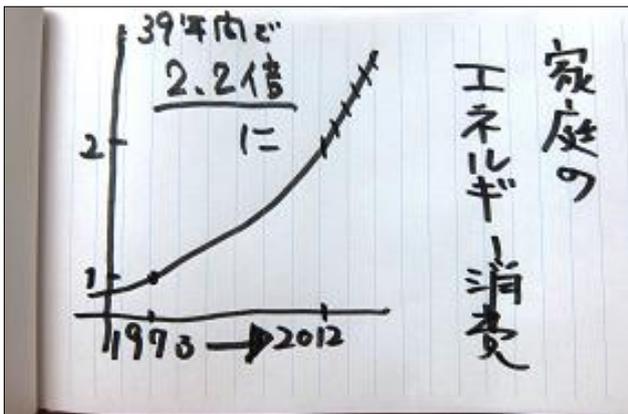


電気は万能ですから、エネルギーの適材適所という考え方にはなかなか意識が向かないかもしれません。電気があれば、パソコンも動かせるし、暖もとれるし、お風呂も焚けるし、何でもできますが、苦手な分野もあります。



そのヒントは、先ほど「5 アンペア生活ビフォーアフター」の表で「×」をつけた家電にあります。これを見ていただくと、ある共通点が見いだせると思います。掃除機以外は、すべて熱に関わるものなのです。たこ焼き器を含め、全部熱を交換したり、熱を発生させたりする家電です。電気はなんでもこなせますが、たとえば電子レンジで食品を温める仕事をするときはものすごくたくさんのエネルギーを使わないと仕事をこなせないのです。逆に、パソコンやスマートフォンの充電には、ほとんど電気は要りません。パソコンは、起動のときは 0.6A くらいかかりますが、安定しているときは 0.2A くらいです。スマートフォンの充電は 0.05A くらいです。

僕の提案は、火の出るもの、火を作るもの、熱を出すものは、なるべくその仕事で得意なガスや灯油を使うことです。これらは CO₂ を出すという批判もありますが、電気を作るのにも海外から買った燃料を使っています。エネルギーの得手不得手、適材適所を意識して使っていただくと、省エネで、電気料金も一気に下がると思います。

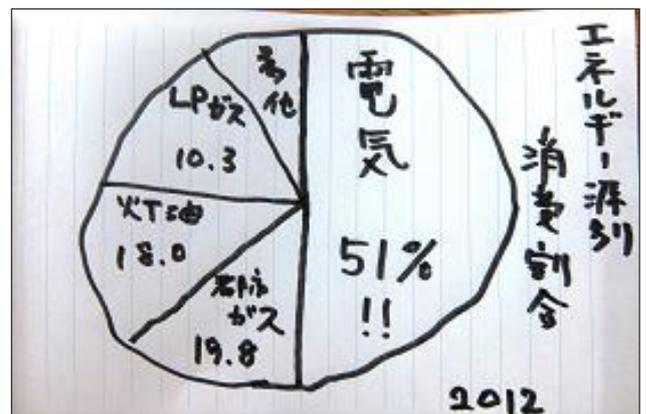


家庭のエネルギー消費は、この 40 年間でだいたい

2.2 倍になっています。省エネ家電が普及してきましたが、核家族や大学生などの一人暮らしが多くなり、世帯数が増えているためです。それぞれの家にエアコンがあり、冷蔵庫がありますから、全体のエネルギー消費はどうしても増えます。みなさんの家一軒一軒のエネルギー消費が増えているというわけではないのですが、結果的に、家庭のエネルギー消費はこの 40 年で 2.2 倍になっています。



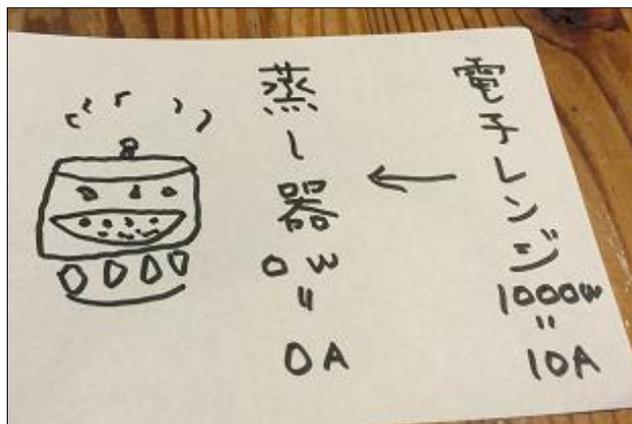
これもエネルギーの適材適所の話と関係がありますが、以前は、石炭がエネルギー源の多くを占めていました。



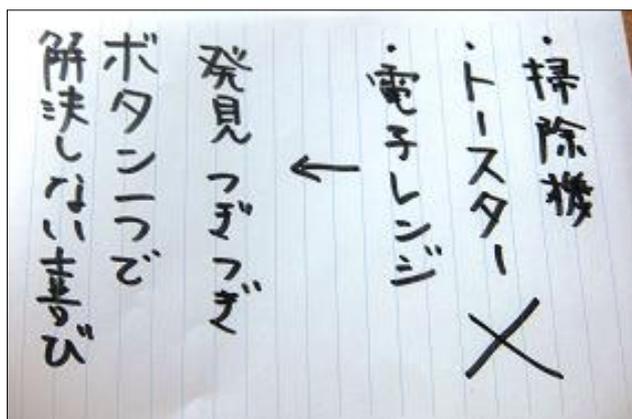
これに対して、今では石炭はほとんどなくなり、代わりに電気が半分以上を占めるようになりました。暮らしがどんどん電気に依存するようになってきていることが統計にも表れています。だから、先ほどのエネルギーの適材適所を思い出していただいて、それぞれのご家庭で、ガスに任せるものを工夫してみてください。

僕が一番嫌いな家電をご紹介しますと、電気ケトルのような湯沸かしポットです。これが一番暴力的な電気の使い方をします。我が家にもありました。一瞬で

お湯が沸きますから、ものすごく便利ですが、その分ものすごく電気を消費します。1200W くらい使います。コーヒーを飲むのなら、気持ちにゆとりを持ちたいですね。やかんを使ってガスコンロで湯を沸かすのが一番風流ではないでしょうか。

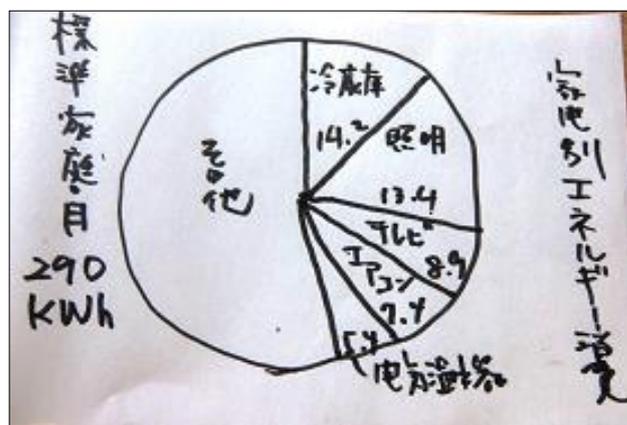


電子レンジも使うのをやめて、ごはんは蒸し器で温めるようになりました。電子レンジは一瞬で食べ物を温めてしまうとても便利な家電です。僕も電子レンジがないと暮らしていけないと思っていたのですが、鍋の底に薄く水を張り、蒸し器の上にごはんを入れて温めると、とてもふっくらとごはんが再生しますので、これもおすすめです。



節電生活をはじめると、火を加減しながらごはんを炊く方法や、行水をして扇風機に当たるとものすごく気持ちがいいといったことを全く知りませんでした。ボタン一つで解決していたことに替わる新しい方法、実はそれは古くからあったものばかり。それを再発見して、とても力強く生活ができるようになったと思っています。

ところで、みなさんは、家庭で一番電気を使っている家電は何か、わかりますか。

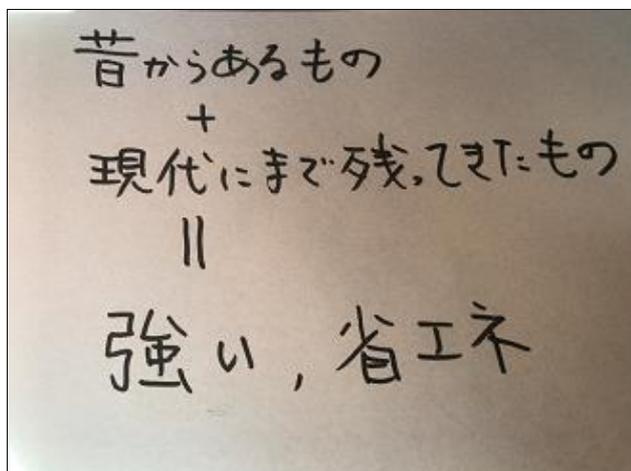


正解は冷蔵庫です。冷蔵庫は、熱交換はしませんが、24時間 365日動いていますので、これは仕方がないことだと思いますが、問題は、ほとんどの家庭が問題のある置き方をしているということです。

マンションなどでは、家の設計上、仕方がない場合もありますが、壁にびったりとくっつけて置いている家がなんて多いことか。冷蔵庫の役目は物を冷やすことです。人間で考えてみましょう。暑い夏に、満員電車で涼しくなりたいときに、前にも後ろにも人が張り付いていたらどうでしょう。気力も萎えるじゃないですか。冷蔵庫も同じで、冷やすためには横も後ろも隙間が必要なのです。冷蔵庫の上も格好の収納場所だといって、お歳暮なんかを置いている方がいますよね。人間だって、頭の上に物を置かれたら嫌じゃないですか。家電に対しても、自分がやられたら嫌だと思えることはなるべくやらないように、と考えるのが楽しく節電するポイントです。冷蔵庫の上に物を置いている方は、今日帰ったらすぐにどけてください。できる範囲で壁からも離していただくと、冷蔵庫の負担が減って、消費電力がぐっと下がります。本当に一番いいのは扉を開けないことですが、そうは言っていただけませんから。その他、庫内にカーテンをつけるという方法もありますが、カーテンをつけることで物を探す時間が増えたら意味がありませんから、そのあたりをうまく解決できれば効果的です。

節電というと、コンセントを抜いたり、スイッチを切ったりと、常に意識を向けていなければいけないと思うかもしれませんが、実は楽をする方法もあります。たとえば照明。白熱電球を使っている方は LED 電球に替えるだけで 8割くらい消費電力量が減ります。替

えてしまうのはもったいないと思われるかもしれませんが、LED 電球もいろいろバラエティーに富んでいて、最近では白熱球のようなやわらかい明かりもあります。こまめに電源を切るよりも、元から替えてやれば、そんなに苦労しなくても節電ができるということです。



実はこういうことも発見しました。僕は冬に豆炭アンカを愛用しています。豆炭は世の中から消えたと思っていたのですが、愛知のホームセンターで発見し、使ってみたらものすごく快適でした。12kg を 1200 円くらいで買いましたが、一粒で 24 時間くらい熱が持続するのです。湯たんぼは朝方になると少し寒くて淋しい気持ちになるのですが、豆炭は夕方に 3 個くらいに火をつけてこたつのなかに入れておき、夜に布団に入れると朝までずっと暖かです。

扇風機もほうきもそうですが、昔からあるものは、テレビ CM もやらないし、おしゃれな婦人雑誌などにも広告が出ません。でも世の中にしぶとく生き残っているのですね。考え方を変えれば、宣伝広告費をかけていないので、その分値段に転嫁されていない、とても優良なものです。

5. 名古屋暮らし

2013 年 9 月に名古屋に赴任しました。それまで全く名古屋に縁はなかったので名古屋勤務経験者に尋ねたら、覚王山がいいと。



そこで、写真のような一軒家を借りました。この家には、元々は 60 アンペアのブレーカーがついていましたが、引っ越してきて 5 アンペアに替えました。中部電力の人がやって来て、電気をつけたその瞬間にブレーカーが落ちました。家じゅうを探索したら、照明が全部ついていて、しかも全て白熱電球だったのです。

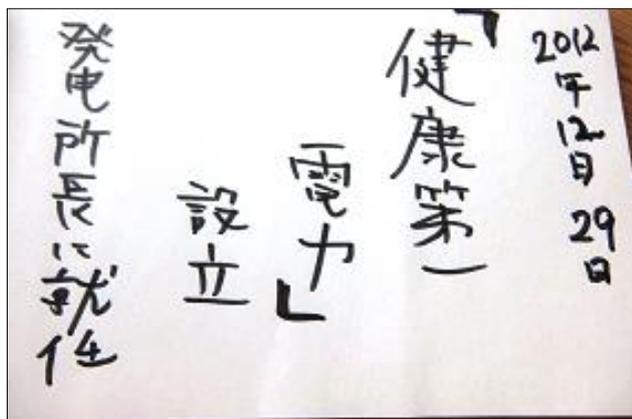


これが天井です。50cm くらいの幅に 2 つ照明がついていました。こんなにもいらないと思い、電球を外しました。こういう状況はみなさんの家にもあるのではないかと思います。



そういう風にして、家中にあった白熱電球を外した写真がこれです。全部で 28 個くらいありました。必

要なところには LED 電球を買ってつけましたが、先ほどお見せした天井の照明に電球はつけませんでした。すぐ横にメインの照明があったからです。当たり前のように設置されていますから、当たり前のようにそのまま使ってしまうのですが、無駄な照明だったので。



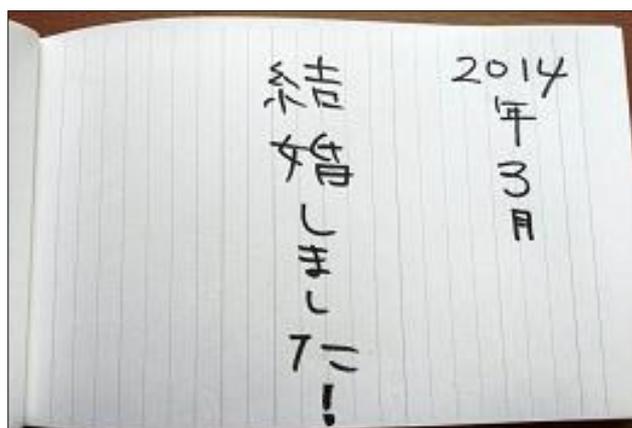
名古屋で一軒家を選んだのは、節電のほかに、発電もしたいという思いがあったからです。我慢だけの生活では発展性がないので、生活に希望を与えたい、光を与えたいと思い、発電所をつくりました。僕の名前は健一郎と言いますので、東電に対抗して健康第一電力、「健電」と名づけ、その発電所長になりました。大そうなことのように聞こえるかもしれませんが、家にソーラーパネルをつけている方は、みなさん発電所長です。みなさんも、発電所にはぜひ名前をつけて可愛がっていただきたいと思います。名前をつけるとやる気になります。やったことは、ネットで「ソーラーパネル 自作」と入力して検索しただけです。



すると、こういうセットがすぐに見つかりました。僕は文系なので電気工事の知識はありませんが、すぐに組み立てることができました。



これは僕のツイッターの写真です。ベランダにソーラーパネルを3枚立てて、物干し竿に金具で固定しています。結構日が当たっているでしょう。



2014年3月、横浜総局に勤務していたときに出会った女性と結婚し名古屋に来たので、「新婚でもできた」と記事にしました。居間は家の2階にあったのですが、気温が36°Cになったので、妻が近くの図書館やカフェに避難して涼をとっていますとそのなかに書きました。クールシェアのつもりで書いたのですが、ネットでものすごく叩かれました。「電力会社の電気を使わないはずじゃなかったのか」と批判されました。僕も、妻が避難しなくてはならないような生活はよくないと思いました。



そこで、名古屋市東区黒門町に築 100 年の借家を見つけ、引っ越しました。持ち家であれば、二重サッシにしたり、ソーラーパネルを屋根に設置したりと、エコな暮らしのためのいろいろな工夫ができると思うのですが、借家ではそうはいきません。転勤族なのでいつ転勤になるかわかりません。だから、名古屋ではそれを逆手にとって、風や太陽を見方につけられる家、エコ生活ができる家を選びました。



100 年も前から人が住んでいた家はとてもよくできていて、風がうまく流れるようになっていました。



これが健電の核心部です。スマートフォンはここで

自然エネルギーで充電します。発電した電力はバッテリーにためておいて、夜でも使えるようにしています。



これは近所に住む教育家の中島澄枝さんという方が、庭にソーラーパネルが並べてあるのを見て不憫に思い、DIY で屋根の上にあげてくれたときの様子です。



屋根に傷をつけないように、クランプというねじ止めにして、穴をあけずに取り付けられています。こうすることで3割くらい発電量がアップしました。



真ん中にいるのが妻です。これは「女性自身」の記者が東京に来てくれたときの様子です。女性雑誌は感度が高くて、「婦人友」や「女性セブン」なども、家まで取材に来てくれました。



これは妻が鍋でご飯を炊いているところを名古屋テレビの夕方のニュースの10分くらいの特集で取り上げていただいたときの様子です。これはその時間帯の最高視聴率をとったそうです。



これは「婦人之友」の記事です。間取りと電力使用の現状までしっかり書き込んでくれました。



これはバングラディッシュのペットボトルクーラーです。それを見て笑っているのは名古屋大学の学生です。トタンの壁に穴を開けて、そこにペットボトルをつけたものです。穴の側がペットボトルの飲み口で、ペットボトルの底は切り落として外を向いています。口を大きく開けてハッと息を吐くと温かいですよ

ね。逆に口をすぼめて吹くと涼しい。その要領で、風が外から吹くと、ペットボトルの狭くなった飲み口から冷たい空気が出て、室内を涼しくしてくれるというものです。去年、教育家の中島さんと一緒に設置しました。僕と中島さん、つまり、これをつくるのに汗をかいた人は効果があると信じているのですが、それ以外の人は効果はないと言っています。風がないとだめですが、風が吹いたときには確かに涼しい……。そうと思いますが、人にはおすすりできません。

結婚してからの大きな変化といえば冷蔵庫です。冷蔵庫を手放したら電気代がずいぶん下がるのではないかと思手放したところ、やはり800円だった電気代が200円になりました。「よっしゃあ」と、喜んでしたのは僕だけで、妻はどうしてもほしいと言いました。去年の夏に冷凍庫を購入しました。でも、ただの冷蔵庫購入では節電道を極めてきた自分としては納得いきませんので、「省エネ型製品情報サイト」で調べました。このサイトには、冷蔵庫をはじめ、テレビ、エアコンなど、今買える家電の年間消費量や省エネ達成率が出ています。そこで全部の冷蔵庫と冷凍庫を調べたところ、一番省エネ達成率が高いのがこの冷凍庫でした。



ハイアールという中国製の冷凍庫です。性能のいい冷蔵庫は、10万円を優に超えますが、これは2万円強ですからお値打ちだったと思います。もちろん、ここでお肉を凍らせてもいいのですが、保冷剤を凍らせてもいます。その保冷剤をクーラーボックスに入れれば冷蔵庫になるからです。冷蔵庫を動かすための電気は使っていないということになります。そのような運

用で、この夏も妻の要求をなるべく満たしながら、平穏な家庭生活を送れるよう、僕も努力をしています。

6. 東京の暮らし



名古屋に3年半いましたが、この3月に東京に転勤になって引っ越し作業をしているところです。



名古屋では築100年の古民家に住んでいましたが、僕が東京の住まいとして選んだのは隅田川沿いのURの住宅団地で、その23階に居を構えました。その心は、太陽と風を味方につけたいからです。ここは三方が開けていますので、風が吹きます。



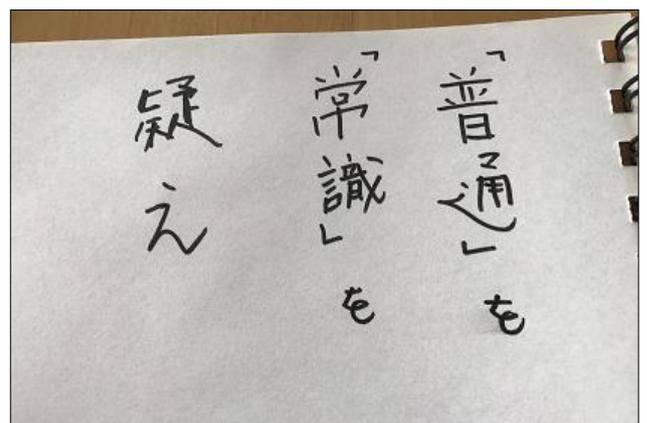
日当たりもいいので、ベランダにソーラーパネルを

置いていて、十分ではありませんが発電しています。

4月に東京に引っ越してきて、昨日に2年半ぶりに5アンペアの記事を出しました。それを読んでいただくとわかりますが、先週、妻が節電生活が嫌だと言い出しました。熱帯夜で風も吹かない夜で、いらいらしていたのかもしれませんが。都心は窓を開けると車の音がすごくうるさいので、窓は閉めます。そうすると、暑くなってきます。扇風機はつけているのですが、独り占めはいけないので首を振るようにすると、自分の方に風が来ないときは暑い。そのときに妻が言った言葉が、「あーやだ。ほんといやだ。エアコンつけたいし」です。そこまでなら、なだめることができたのですが、その後の言葉がショックでした。「電子レンジも使いたいし、普通の暮らしがしたい」と、どんどん欲望が膨れ上がってきて、困ったなあというのが現状です。

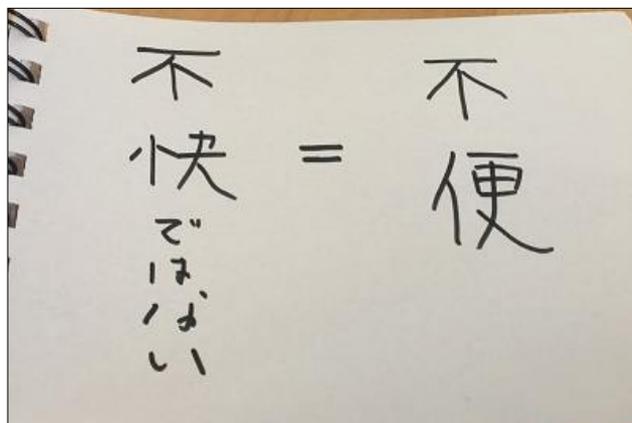
この夏は、本当に暑い日はまだ4日くらいですけど、そんなときはどうしようかと思っています。バングラディッシュのペットボトルクーラーも効かないので、最後に一縷の望みをかけているのは、扇風機に保冷剤をつけて涼風を得るという方法です。まだ試していませんが、保冷剤は凍らせられますから、試してみたいと思っています。それもだめなときには、発泡スチロールの保冷ボックスに穴を開け、なかに保冷剤を入れると穴から涼しい風が出てくるらしいので、これも試してみたいと思っています。

7. まとめ

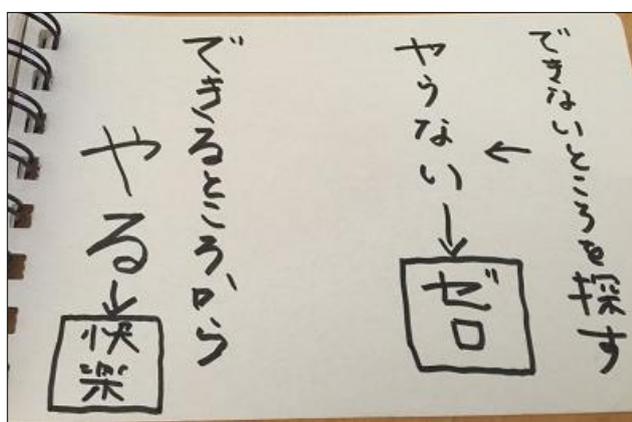


まとめです。今まで「普通」だと思っていたこと、「常識」だと思っていたこと、たとえば、原発があっ

て当たり前とか、ここに白熱電球があつて当たり前と
 いったことは、まず疑ってみるといいのではないかと
 思います。そうすると、意外な発見があつて、電気を使
 わなくてもできる道具、代替になるものが見つかり
 ます。「こんな生活はできない」とか、「馬鹿じゃない
 か」と言う前に、「できるかも」と肯定的に考えてみる
 ことです。

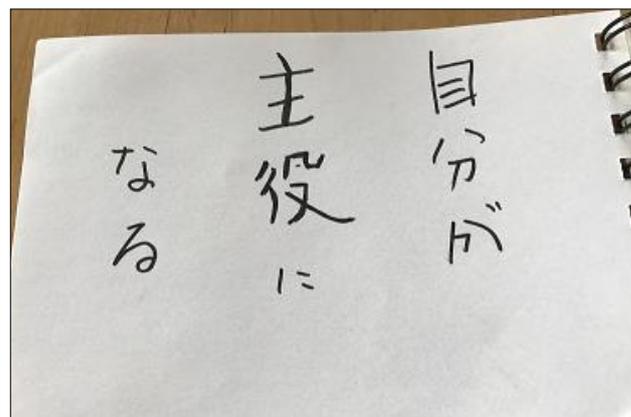


電子レンジも使えませんし、不便なことももちろん
 あります。でも、全体としては、そんなに不快ではあ
 りません。妻が不平を言うなんて問題のある暮らしな
 のかもしれませんが、本当に暑い日は 365 日のうち、
 それほど多くはありません。不便ではあつても、それ
 が不快とは限らないのです。



文句を言う人は、できない理由ばかり並べます。そ
 うすると、何も得るものはありません。昨日の新聞記
 事に対して、ツイッターでは、「馬鹿」とか、「妻虐
 待」とか、ほとんどが文句でした。でも、家に断熱材
 を入れてみたらどうですか、といった提案をしてくれ
 た人もいました。何か方法はないかと考えるのは楽し
 い作業ですし、やってみることで喜びや快楽が得られ
 ます。今日の機会を与えていただけたのも、節電をや

っていたからで、節電をしていなかったらみなさんにも
 出会えませんでした。ですから、やっぱり節電をや
 ってよかったなあと感謝の気持ちですし、できるところ
 からやっていけばいいのかなあと思っています。



今まで、我々は電気供給を中部電力などの他人に全
 部任せてきました。だから、電気代を上げられても、
 原発をつくられても、何も文句を言えませんでした。
 それが不健全な方向に動こうとしていたとしても、相
 手が大きすぎて手も足も出せないのが電気の業界の
 現状だったと思います。けれども、「健電」をつくる
 こともできるし、電力自由化で電力会社を選ぶことも
 簡単にできます。我が家もさっそく自然エネルギーを
 推進している会社に変えました。アクションを起こし
 て、自分が生活の主役になることが快樂につながりま
 すし、大事なことだと思ふようになりました。

以上です。どうもありがとうございました。

講師プロフィール

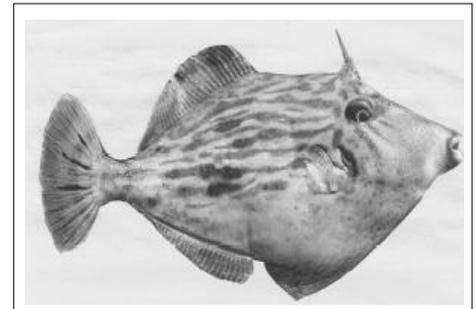
斎藤 健一郎 (さいとう けんいちろう)

1974年、東京都生まれ。
 中央大学総合政策学部卒業。
 海外ドキュメンタリー制作会社テムジンを経て、
 2004年に朝日新聞社入社。郡山支局、名古屋本社
 報道センターなどを経て、現在は文化くらし報道部
 所属。
 自家太陽光発電所「健康第一電力」所長。5アンペ
 ア暮らしの連載記事が反響を呼んだ

釣り人からの水辺だより—初冬 「カワハギ釣り」

カワハギ（皮剥ぎ）

カワハギは、ウロコがなくかたくてざらざらした皮におおわれている魚である。丸ハゲ、本カワハギとも呼ばれ、調理の際にその皮をはぐことが名前の由来とされる。フグの仲間であり、秋から冬にかけては濃厚な肝の旨味が楽しめる。定置網や刺し網、餌を仕込んだかご漁などで漁獲され、市場には10月～1月にかけて出回る。



カワハギは、好奇心旺盛な器用な魚で、底石や堤防の壁面をついばむように餌を捕り、砂地では口に含んだ海水を砂に吹き付け、飛び出てくる小エビやゴカイなどを捕食する。速い泳ぎは苦手だが、上下する餌についてまわり、知らぬ間に餌を取ってゆく。愛嬌たっぷりの風貌ながら、釣り人には「餌盗り名人」の異名で呼ばれる。

太平洋のカワハギ釣り

北陸では堤防や筏の釣りに限られ、10月にピークを迎え水温低下とともにシーズンオフとなるが、黒潮が洗う三重県では厳冬期を除き、周年の釣りものである。潮の濃い外海の堤防や磯、湾内に設置された黒鯛等の釣り筏や養殖筏が主な釣り場となり、水深があるほど型*1もよく遅くまで釣りになる。9月～11月がベストシーズンであるが、12月～1月の冷え込みとともに肝が肥大し、腹の厚みの増した25cm級、渡船を利用する沖磯では30cm級もまじえ旬を迎える。主な釣り場として、三重県全域の港や磯、筏、伊勢湾の湾口周辺の港や離島、静岡県の伊豆などがある。

*1：魚の大きさ。

カワハギの釣り法

当たりもなく、再三餌がとられるのはカワハギの仕業かもしれない。居食い*2はカワハギの得意業であり、ベテランでも手ごわい相手である。誘いも入れず待っているだけでは餌を盗られるだけであり、常に誘い、あるいは止め、小さな当たりにも積極的に合わせてゆく。合わせが誘いになり、誘いが合わせにもなるのがカワハギ釣りである。人が入れ替わり入る釣り場は、常にサビキ釣り*3やフカセ釣り*4などの撒き餌が利き、カワハギを含め様々な魚たちが集まるポイントであるが、カワハギの小さな当たりをとるのは至難の業である。ミャク釣り*5スタイルで細かい当たりを手当たり次第合わせてゆくのも一つの手だが、カワハギの習性をもとに考えられた「タタキ釣り」*6、「タルマセ釣り」*7は船の釣りや筏の釣りでも実践される基本といえる釣り法である。タタキ釣りやタルマセ釣りをおりませ、よりアピールしてやるのがポイントとなる。

*2：魚が動かすその場で餌を食べること。当たりがない。

*3：撒き餌を入れるかごと疑似餌針が数本付いている仕掛けを使う。

*4：ウキ下のハリスを長くとり、仕掛けを海中に漂わせながら魚を誘う釣り方。魚を寄せるために撒き餌を使う。

*5：ウキを使わず、脈をとるように穂先で当たりを取る。

- *6：オモリで海底をたたくようにして釣る方法。着底後、小刻みにたたくようにシャクリを入れ、ゆっくりと仕掛けを半ヒロから一ヒロ上げ、着底させて当たりを待つ。これを反復する。積極的なシャクリと誘いがコツ。
- *7：底に仕掛けを這わせ、糸のたるみをとるつもりで上げる釣り方。当たりがなければさらに着底させ、たるみをもたせてカワハギの追いつける速さで上げるとかかるとが多い。これを繰り返す。カワハギは逃げる餌に食い込みがいい。

カワハギ釣りの餌

食い込みの良いやわらかい餌から餌持ちの良いための餌を状況にあわせ使用する。やわらかい餌は一瞬で食われるので、2~3秒と待たず早合合わせで掛けてゆく。沸き上がるような餌捕りやフグの多いポイントでも間がとれるのは固めの餌。それでも餌が持たない場合はより固い餌に替えてゆくのが効果的である。当たりが途切れるのは餌がないサインであり、小まめな餌つけと手返しが釣果につながる。

- やわらかい餌：沖アミ、青ムシ、岩ムシ、モエビ、甘エビ、ウタセエビ、ポイルオキアミ
- 中間的な餌：アサリ刺身、イカ、2枚貝
- かい餌：イカゲリ、トコブシ、シंगाサ、巻き貝など
- *いずれもカワハギのおちよぼ口に合わせ小さくまとめるように鉤付けすることがコツ。カワハギは学習能力があり、同じ餌で釣り続けると食い渋りが出るため、数種類の餌を用意したい。実績ある剥きアサリをベースにやわらかい餌（青ムシや甘エビ他）、固めの餌（イカ切り身やトコブシなど）を用意すると万全である。

カワハギ釣りのポイント

堤防では、潮の流れが不安定な先端部より少し内側へ入るくらいが釣りやすく、水深が5m程なら手返しの良い延べ竿の釣りが面白い。カワハギは小群で移動する底の魚であり、撒き餌が効果的である。軽い仕掛けでは沈下途中餌とりに捕まることもあるため、オモリを調節し、一気に沈めるとよい。15~25cmのものが期待できる。

グレなどのフカセ釣りの撒き餌が入る沖磯は、スレていない良型が釣れるポイントである。冬真近は腹がパンパンの30cm級が上層まで浮いてくるほどで、見釣りも可能な釣り場も多い。足元から壁になる磯がカワハギ向きのポイントである。

(釣り人/工藤秀和)

堤防の釣り (延べ竿、タックル)

- 竿：先調子のアマゴ竿、イワナ竿など 6.3m~
- 道糸：ナイロン糸 2~2.5号
- 幹糸：ナイロン2号 • ハリス：2号 (7~10cm)
- 鉤：G社伊勢尼 3~4号、O社チヌ 0.5号、カワハギ鉤 5~6号
- 仕掛け：3本銅付仕掛けなどの市販カワハギ専用仕掛け
- オモリ：かみつぶし 0.8~1.5号
- 撒き餌：グレや黒鯛の集魚剤(市販)をベースにアミエビを配合したもの(アミエビ 1kgと市販集魚剤グレ用など 1/2袋)
- その他：ヨリモドシやハリス止め 14~16号

沖磯の釣り (大物に備えた沖磯のタックル)

- 竿：磯竿 5.4cm 1~2号
- リール：スピニングリール 2000~2500番
- 道糸：ナイロン 2.5~3号
- 幹糸：ナイロン 2.5~3号
- ハリス：フロロカーボン 2~3号 (5~10cm)
- 鉤：G社伊勢尼 3~5号、O社チヌ 0.5~1号
- 仕掛け：3本銅付仕掛けなど市販カワハギ専用仕掛け
- オモリ：かみつぶし 0.8~1.5号
- 撒き餌：堤防の釣りと同じものを使用
- その他：ヨリモドシやハリス止め 14~16号

カワハギ胴付き仕掛け



これはインターネットに掲載されている絵です。「すだれ」や「よしず」を使い、夜でも暑いときは部屋を開け放っていたようです。現代ですと、マンションの上の階であればよいでしょうが、それ以外の方は不用心ですからなかなかそのようなことはできませんが、当時はそのようにして外と変わらない生活をしていました。また、見た目だけでも涼やかにしようと、金魚を飼って視覚的に涼しさを楽しむということもされていたようです。

そこで、今川さんにお尋ねしますが、江戸時代、名古屋のお殿様は涼しく暮らすために、どのような工夫をされていたのでしょうか。何かありましたら教えてください。

今川：お殿様は、日頃政治を執るときは御殿におみえで、天守や天守閣は何か事が起きたときに使うだけでした。御殿の周りには庭や木々を配してあり、しかも昔の建物は皆さんもよくご存じのように、夏、いかに涼しく過ごすかという工夫が施されていました。今日のテーマはフロンですが、できるだけ自然のものが使われていて、そういった不要なものを出さない生活をしていました。また、木につきましても、天然、すなわち、木曾から取り出したヒノキ、サワラ、マツ、スギを多用したお部屋におられましたので、夏であっても、とても快適であったと思います。将軍様のように、富士から氷柱を取り寄せたという話も一部にはありますが、そこまでしなくても夏は涼しかったと思います。それよりも、冬をいかに快適に過ごすかということの方が大変だったと思います。皆さんご存じの手あぶりも、お殿様個人用と面会時に使うものがあり、さらに個人用の炬燵こたつを使っていました。これらは、明治時代に公開されました尾張藩最後の第17代のお殿様である徳川慶勝が撮った写真に載っています。先ほど児玉先生からお話がありましたように、江戸時代は小氷期と言われ、イギリスのテムズ川も凍ったというくらい寒かったとされていますから、いかに寒さを凌ぐかがポイントだったと思います。



児玉：それではフロンの話をさせていただきます。フロンは我々の身近な生活にどれくらい使われているのでしょうか。スライドは経済産業省の資料から数字を持ってきたものですが、冷蔵庫には150gくらい、エアコンには800gくらい、自動車はいろいろなタイプがありますが、一般的なものと700gくらい使われています。では、これらのフロンを使用している機器はどれくらいで廃棄されるのでしょうか。自動車は10年くらいで廃車にされますし、エアコンも10年くらいで買い替えられます。冷蔵庫はもう少し長いかもしれませんが、いずれにしてもご家庭では1.7~1.8kgのフロンが10年くらいの単位で不要になります。そして、これまではフロンをそのまま捨てていました。捨てると言っても大気中に放出し、目の前からなくなるということです。しかし、それでは調子が悪いということがわかり、経済産業省がいろいろな取り組みを始めました。

フロンは気体ですから見えませんが、それを使用している機器類にシールを貼ることでフロンを「見える化」しようというわけです。「見える化」とは、たとえば、冷蔵庫やエアコンにフロンがどれくらい使われているかを表示するということです。もうひとつは、フロンの回収です。フロンを使っているエアコンが要らなくなったときには電気屋さんに取り換えてもらいます。そのとき、室内機と室外機をつないでいるパイプを切るとシューという音がすることがあります。要するに、フロンは回収されていません。そうではなく、フロンの回収に努めましょうということです。もちろん、ある程度の規模以上の冷凍冷蔵機器類ではそ

に重要な働きをする熱の運び屋です。フロンが開発される前にはアンモニア冷凍機というものがありませんでした。ただし、これはかなり毒性が強いで取扱いには注意が必要でした。また、腐食性が高いので機材に悪い影響があります。このため、もっと簡単に使えて人畜無害の冷媒はないかということで開発されたのがフロンです。フロンは無害で、極端なことを言えば少々吸ってしまっても倒れることもなく、また非常に安定しています。それをデュポンというアメリカの会社が開発し、世界に売り出したわけです。大変取り扱いが簡単で人畜無害、機械にも悪い影響がないため、アンモニアよりよほどいいということで広く使われるようになりました。ですから、今日我々が空調のある部屋に住めるのはフロンのおかげです。もしフロンがなかったなら江戸時代と同じだったかもしれません。「夏は暑いから金魚でも見ておこう」となり、皆さん、汗疹だらけになっていたかもしれません。ですから、フロンは必ずしも悪者というわけではありません。しかし、地球環境を損なうという意味では調子が悪いということで、とにかくオゾン層を破壊しないものをつくろうとなり、開発が進められました。



やれやれと思ったら、フロンに替わって新しく開発されたものは温室効果が高いことがわかりました。温室効果とは難しそうな言葉ですが、要するに温室になる、地球が暖まるということです。これから冬になりますが、特に年寄りには寒さに弱いので温室効果ウェルカムと言いたいところですが、地球全体となるとどうも調子が悪いと言えます。気温が上がるだけではなく、台風が異常に発達し、たくさんやって来ます。実際、

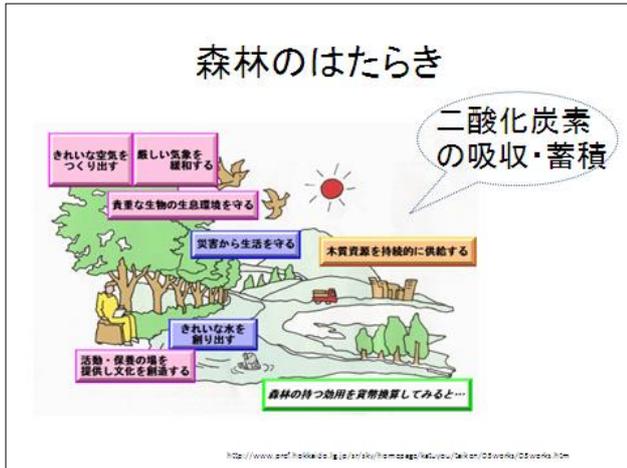
今年の夏がそうでした。高温注意情報が毎日のように出され、救急車が頻繁に走っていました。ですから、温室効果が高まることは非常に調子が悪いとわかってきて、これを何とかしなくてはいけないとなったわけです。



温室効果とは具体的にどういうことかということ、太陽から来た光は、本来その多くは再び放出されて戻っていきますが、多少の貯金効果があることによって地球はほどほどに暖かく保たれています。もし、これがないと地球は -15°C くらいになって凍ってしまうのですが、太陽からもらったものは一切返さないというような状態になれば、どんどん気温が上昇してしまうことになります。そのような温室効果を高めてしまう最たるものが二酸化炭素です。これが今国際的にも問題になっています。そのほかにも、代替フロンと呼ばれるフロンも温室効果が高いことがわかってきて、これはまずい、なんとかしなくてはならないとなっていることを皆さんにも知っていただきたいというわけです。

フロンのなかった江戸時代には様々な工夫をして毎日を過ごしていました。もちろん、我々が江戸時代のような生活をすることはできないと思います。とすると、快適な生活をしながらも、オゾン層を破壊せず温室効果ガスを出さないようにするためにはどうしたらいいのでしょうか。そこで、これから名古屋城とフロンとはどういう関係にあるのかという話をさせていただきますが、今名古屋市議会では名古屋城天守閣を木造にするのかしないのか、毎日のように議論されています。河村市長は木造派です。

今川：河村家は代々学者肌の家柄でして、有名な学者さんに河村秀穎^{ひでか}という方がいます。その息子さんに河村秀根^{ひでかね}という方がいまして、この方が七代のお殿様宗春^{むねはる}のときに近習^{きんじゅう}（主君のそば近く仕える家来）に取り立てられています。そのようなお家柄です。また、お住まいが古出来にあつて、そこはいわゆる名古屋台地の武家屋敷街であつたということも河村市長のご自慢であると思います。



児玉：では、木、すなわち、森林は我々にどんな働き、役割をしているのでしょうか。これもインターネットで調べるといろいろなことが書いてあります。「きれいな水を創り出す」とありますが、木曾川の水は結構きれいで、名古屋市民がおいしい水を飲めるのは森林のおかげであると言えます。「活動・保養の場を提供し文化を創造する」とありますが、この時期に長野県の赤沢自然休養林に行って森林鉄道に乗ると、非常に気持ちがいいですね。「災害から生活を守る」、「貴重な生物の生息環境を守る」とあります。最近クマがよく出るので貴重な生物とはあまり思わないかもしれませんが、人間が破壊者であつてクマの方がむしろ迷惑しているのかもしれませんが。いずれにしても貴重な生物の生息地であるということです。「厳しい気象を緩和する」とありますが、もし日本に全く森林がなく、すべて裸地であつたとしたら、もっと厳しく過ごしにくい環境であつたでしょう。森林によって気象が緩和される、要するに最高気温と最低気温という1日の気温差が小さくなるということです。それから、森があると「きれいな空気をつくり出す」ということです。空気に対しては誰も感謝しませんが、非常に重要

なことです。「木材資源を持続的に供給する」ということもあります。さらに、ここには書いてありませんが、もうひとつ重要なことは二酸化炭素を吸収することです。二酸化炭素を吸い、太陽の光を使って木は自分の体をつくっていきます。すなわち、名古屋城天守閣の木造化は二酸化炭素の固定につながります。

名古屋城は、戦争で燃えるまでは皆さんご存じのように木造でした。では、名古屋城はどのくらいの木を使ってつくられていたのでしょうか。あるいは、その木を用意するためにはどれくらいの広さの森林が必要だったのでしょか。皆さん、どれくらいだと思いますか。今、新たに名古屋城を木造でつくるとしたら、どのくらいの面積の木が必要か、森林の維持管理を何十年行えば名古屋城の木造化に使えるのか、といった議論は名古屋城の木造化に際して全くされていません。かつて、名古屋市は環境首都を目指して啓発活動を行っていましたが、環境首都を目指すのなら、名古屋城の木造化に伴うこれらのことを考えなくてはならないのではないのでしょうか。私は市民の皆さんにぜひこのことを知っていただきたいと思います。4月頃に私は名古屋市役所に行って、一体どのくらいの木を使うのかと尋ねたのですが、わからないと言われてしまいました。そこで、自分で調べてみました。



まず、木についてですが、お城をつくるとなると、普通はヒノキが主体だろうと思われま。写真はヒノキの林です。ヒノキ風呂というものもあります。今川さんにお尋ねしますが、お殿様はヒノキ風呂に入っていたのでしょうか。

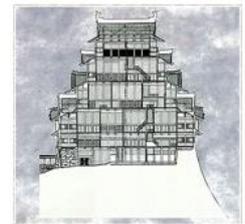
今川：お殿様は江戸の中期までは風呂桶には入ってい

ませんでした。どういったお風呂に入っていたかという、今でいうサウナ風呂です。お湯を沸かすときに同時に石を温めまして、湯気を発生させます。そして、お殿様専用の小屋の中に送り込みます。お殿様は下着だけで小屋の中に入られて椅子に座り、一定時間汗を流します。お殿様が「もういいよ」と言われたら、お風呂場の御女中さんがお殿様の着衣を脱がせて汗を拭いたり、水で洗い流したりして汗や垢を落としたりとされています。皆さんご存じの「水戸黄門」では、水戸光圀さんがお風呂に入るシーンがありますが、水戸光圀さんの時代くらいから一般にも風呂桶が普及し始めています。元禄時代ごろから経済が発展して町民も裕福になったということです。そして、お風呂とともに普及したのが瓦葺です。それまで武家以外は瓦の使用は一切禁止だったのですが、江戸も尾張城下も將軍様からお達しがありまして、江戸中期から商家も使えるようになりました。その結果、江戸の火事が激減したという記録もあります。火花が散っても大丈夫というわけです。

先ほどのスライドにヒノキの御林がありましたが、昭和 20 年に燃えた名古屋城の天守閣は、木曾の御林から伐り出した木曾ヒノキでつくられていました。なんと先代の天守閣には 37,974 本ものヒノキの柱が使われていました。皆さん覚える必要はありませんが、「ミナクルシュウナシ」で覚えられます。なぜ私がこれを知っているかということ、江戸時代の文献に『金城温古録』という古い書物がありまして、これは尾張徳川家の掃除中間頭だった奥村得義^{かつよし}という方が家老の命令を受けて名古屋城のことを記録したものです。そこに記録があったので、皆が知るようになりました。木曾の御林は武田信玄以来、武田、織田、徳川に取ったり取られたりしたのですが、最後は尾張徳川家の名古屋城下の宝になりました。毎年石高にして 8 万石くらいの収入がありました。尾張藩の石高は口承 62 万石弱ですが、実収は 100 万石近くありました。その約 10 分の 1 の稼ぎ頭でした。しかも、現金収入です。8 万何千石をまるまるお殿様がもらえるわけです。石高 60 万石、あるいは 100 万石といっても、それは農民に分け与えなくてはなりません。ということは実質 50

万石です。ところが、御林は現金で尾張徳川家に入りましたから、非常に価値がありました。しかも、管理も行っていました。どのように管理をしたかということ、当初は武家が管理をしたのですが、とても管理しきれないということで、地元の山守の人に委託をしました。その人を侍の身分に引き上げ、30 石くらいを与えて年中見張りをさせました。なんとその人は、365 日のうち 300 日は林の中にいたそうです。そして、どの木を伐ったらいいか調べました。また、当初、徳川家は鷹揚に構えていたのですが、密猟者がいたため厳罰化しました。「小枝一本腕一本」、「木を倒したら首が飛ぶ」というくらい厳しくこの林を守りました。そのおかげできれいな林が残っていたのですが、幕末にかけて江戸からお殿様が来るようになり、江戸城の御殿の修復時に無秩序に伐られたため、かなり荒れてしまったという記録もあります。テレビなどご覧になったことがある方もいるかもしれませんが、ヒノキを伐るときは一本一本セレモニーを行います。まず、お清めをして、「三紐伐り^{みつひもき}」によって伐り倒します。潔斎をした白装束の樵^{きこり}が三方から斧を入れ、最後は一方向に倒れるように一番長老の樵^{きこり}が斧を入れ、間違いなくその方向に倒れるようにします。ですから、けが人は出ません。そして、伐り倒した株の若い実をそこに入れます。それを実生と言います。そうすると、何十年後に以前と同じヒノキが育つというわけです。このような儀式を行いながら、一本一本大切に管理をすることで素晴らしい林を維持していたというわけです。

名古屋城木造復元に要する木材量



内藤昌・名工大名誉教授試算では天守閣に2300m³の木材が使用され、原木換算するとこの25倍=57500m³とされています。

引用→千田龍彦著「尾張名古屋城の歴史」鳳凰社2011年7月29日

全ての木材をヒノキとした場合、固定される炭素量はおよそ18000トン、二酸化炭素量では67000トンに相当し、2万弱の世帯が1年間に排出する二酸化炭素量と推計されます。https://www.enj.go.jp/press/files/j20094.pdf

児玉：ありがとうございます。最後のスライドになります。戦前に撮られた木造の名古屋城の写真です。

右側は木造であった当時の模式図です。『尾張なごや傑物伝』という本がありまして、このなかで名古屋工業大学の内藤先生が、名古屋城には一体どのくらいの木材が使われていたかを計算されています。結果は、全部で 2,300m³ の木材が使われていたそうです。2,300m³ とはどれくらいか、なかなか想像できませんが、木を使うときには周りを削ったりしますから、原木に換算する際には25倍にしなければなりませんので、57,500 m³ くらいは必要だったこととなります。大雑把ですが、林野庁の外郭団体が出しているデータをもとに、57,500 m³ のヒノキが固定する炭素の量を計算すると 18,000 トン、それを二酸化炭素に直すと 67,000 トンとなります。一般家庭が1年間に排出する二酸化炭素の量は毎年変動していますが、環境省が公表している一番新しい数字を見ると 3.7 トンとなっています。とすると、この 67,000 トンという二酸化炭素の量は 2 万世帯分弱になります。つまり、名古屋城を木造化することは、2 万世帯弱の家庭が1年間に排出する二酸化炭素を名古屋城に移動することに相当するというわけです。一方、そのためのヒノキを育てようとすると、ディズニーランドの4倍の面積に相当する 200ha の森林が必要であり、先ほどのお話にあったような厳しい管理を 50 年以上かけて行って初めて木造の名古屋城が建つということです。このことを皆さんには知っていただきたいと思います。

フロン対策とは、二酸化炭素対策になってきています。二酸化炭素対策をもう少し身近に感じようとするなら、今我々が注目している名古屋城を木造化することは、お金の問題もさることながら、このような背景があるということです。名古屋城の木造化に際して「名古屋市は木曾に 200ha の美林をつくり、少なくとも 50 年間はそれを一切伐らずにヒノキを育てます。それが、名古屋市が名古屋城を木造化することのメッセージです」と言ったなら、私は喜んでそれに賛同したいと思うのですが、誰もそういったことを言いません。今日ここにおられる皆さんが地元の市議会議員さんにこの話をもってご助言していただけたらと思います。我々は、フロンのおかげで豊かで過ごしやすい社会で毎日暮らしていますが、その裏側では、今日お

話ししたようなことになっていることをご理解いただきたいと思います。

今川：ありがとうございます。ヒノキについて少し付け加えさせていただきます。名古屋城には 37,974 本の柱を使っていますが、一番太い柱は 1 尺 4 寸です。尺や寸がどれくらいかわからないかもしれませんが、名古屋城はサイズが他とは違い、大京間サイズですから 1 辺の長さはほぼ 1.97m です。ですから、1 寸に直すと 3.28cm であり、1 尺 4 寸角とは 1 辺が 45~46cm になります。一番太いものでこれが使われています。この太さの柱をヒノキから伐り出そうとすると、ヒノキを 200 年以上育てなければなりません。また、細いもので 1 尺 2 寸、35~36cm です。ですから、無垢のヒノキを使って名古屋城を再建することは現実的には不可能だと思います。そんなに木を伐ったら、日本からヒノキの大木が無くなってしまいます。ですから、表面をヒノキにするといった方法を考えているのではないかと思います。また、柱は 1 階から屋根まで達する一番長いもので約 16.5m あります。これだけでもかなりのヒノキがいることがわかりますので、集成材を使ったり、鉄骨の上にヒノキのカバーをかぶせたりするなど、いろいろな方法を考えていると思います。名古屋城の木造化が環境面についても考えながら進められれば、児玉先生がおっしゃるようになります。ものになるのではないかと私も思います。

児玉：以上で私たちの話を終わります。どうもありがとうございました。

今川：ありがとうございます。

講師プロフィール

児玉 剛則（こだま たけのり）

1966 年 3 月 立命館大学理工学部化学科卒業。

1966 年 4 月、名古屋市役所勤務。1969 年 5 月、愛知県庁勤務。2004 年 4 月、社団法人環境創造研究センター勤務。2010 年 4 月、愛知県地球温暖化防止活動推進センター（非常勤）

2004 年より、名古屋産業大学、中部大学、常葉大学で非常勤講師。現在、名古屋産業大学・大学院非常勤講師を務める。